

第7回全国バス学習研究会

主催 全国バス学習研究会
 新潟県新潟市立曾野木中学校
 後援 新潟県教育委員会
 新潟市教育委員会

新秋の候、先生方には激動する社会情勢に対して一段ときびしく教育実践にとり組んでいられることと存じます。多様化した現代社会に適応する人間の育成には、教育のあり方そのものが問われております。わたくしどもはその方途をバス学習に求め地域ぐるみの教育をめざして実践を推進してまいりました。全国バス学習研究会も本年は第7回を迎え、よりいっその発展深化をとげつつあります。ここに同好の先生方の参加を得て、さらに多面的にバス学習のあり方を追求したいと存じます。多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

1 主 題 自主性を育てるバス学習 - 生活指導の実践 -
 2 期 日 昭和49年10月11日(金)・12日(土)
 3 会 場 新潟県新潟市立曾野木中学校

4 会 程 第 1 日 (10月11日(金))

8:30- 受付	9:00 公 開 授 業	9:50 10:00 全 体 会 議	12:00 昼 食	13:00 (地区代表者会)	15:30 分 科 会 議	16:30 部落バス 参 観
		開 行 事			問 題 提 起 (4 分 科 会)	
		全 体 会 議				
		全 体 発 表 議 論				

第 2 日 (10月12日(土))

8:00 受付	9:00 9:10 公 開 授 業	9:30 10:40 全 体 会 議	12:10 12:20 昼 食	13:00 講 演	14:00 閉 会 行 事
		全 体 討 議		講 評	

5 公開授業

9:00 ~ 9:50

年組	内容	指導者	年組	内容	指導者	年組	内容	指導者
1 A	学年集会	斎藤剛	2 A	学活	宮下孝	3 A	国語	松本欣一
1 B	集会	村山昭次	2 B	学活	舟越和吉	3 B	理科	笠谷良介

一部変更されることも予想されますがお許しくください。

6 全体会 10:00 ~ 12:00

(1) 開会行事

あいさつ

新潟市立曾野木中学校長
新潟市教育委員会教育長
新潟市立曾野木中学校PTA会長

大口好文
小野塚忠義
野上悦夫

(2) 歓迎のことば 全体発表と討議

研究経過ならびに実践報告

新潟市立曾野木中学校教諭

舟越和吉

バズ方式による全体討議

司会者 栃尾市立川谷小学校長

土屋邦雄

新潟市立石山中学校教諭

菅井詢子

7 分科会

分科会名	助言者	司会者	問題提案校
1 学(教科)習(教科)中学校	前田義夫 望月和三郎 宿南勝之助 新潟市日新中学校長 東京都小平第二中学校 姫路市飾磨中学校	新潟市赤塚中学校教頭 成田俊	春日井市東部中学校 豊川市中部中学校 一宮市浅井中学校 尼崎市日新中学校 姫路市飾磨中部中学校 新潟市松浜中学校
2 生活指(教科外生活指導)導中学校	岩村俊正 新田正彦 掛川市三笠中学校長 高知県奈半利中学校 広島県豊中学校長	新潟市鳥屋野中学校 西野功	高知県奈半利中学校 掛川市三笠中学校 豊川市代田中学校 兵庫県鹿谷中学校 岩見沢市上幌中学校 新潟市曾野木中学校

3	校外。地域 (部落バス PTA・補導) 小・中学校	姫路市城南小学校長 広島県安浦中学校長 静岡県住吉小学校長	永井辰夫 山根正 河村寿計雄	新潟市曾野木中学校 齋藤剛	広島県豊浜中学校 姫路市高丘中学校 春日市知多中学校 長崎県喜々津中学校 新潟市曾野木中学校
4	小学校部会	滋賀県五個荘小学校長 青森県五所川原小学校長 長野市湯谷小学校長 姫路市安室小学校	森寅三 藤田精三 山田美三雄 吉田武男	新潟市笠木小学校 渋谷浩	五所川原市五所川原小学校 長野市湯谷小学校 豊田市清水小学校 滋賀県五個荘小学校 姫路市安室小学校 豊川市千両小学校 新潟県刈羽小学校 新潟市五十嵐小学校

8 部落バス 15:30 ~ 16:30

9 全校集会 12日(土) 8:30 ~ 9:00
全校集団づくりの一断面

10 全体討議 9:10 ~ 10:30
分科会からの問題提起と討議

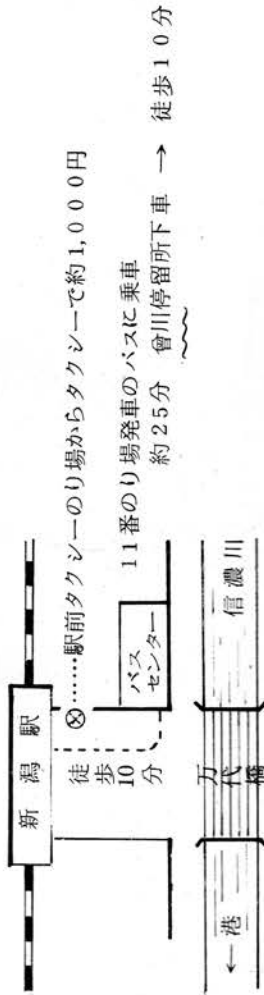
司会者 豊川市立中部中学校長 白井 仁 殿
助言者 春日井市教育委員会指導主事 萩原 克 已 殿
名古屋大学教授 塩 堦 芳 久 殿

11 講評 新潟市教育委員会指導主事 牧野 正 弘 殿
12 講演 講師 名古屋大学教授 塩田 芳 久 殿
演題 「教育研究とシステム化」

13 閉会行事 あいさつ 新潟市立曾野木中学校長 大 口 好 文

14 交通案内

信越本線 新潟駅下車



15 参加申し込み

会費 1名 2,000円 (研究物とも2日分を含む)



申し込み締切
宿泊申し込み

9月20日

10月11日の民泊(1泊2食) 2,500円

宿泊希望者は予納金1,000円を学校宛お送りください。(予納金の返済は一切とりあつかいません)

10月11日以外の宿泊はお世話しません。

会員数について

申し込み者多数の場合は小規模校のため施設・設備の関係上250名ほどで打ち切らせていただきます。

切---り---取---線

第7回全国バス学習研究会参加申込書

都道府県名		学校名		所在地	
職名	氏名	分科会	民泊希望 10月11日		備考
			昼食希望(外食店なし)		
			11日	12日	

第一日(11日金) 10時~12時

全体協議バブ

1 班	市教香山 石川代田 豊路飾磨 姫野野小	野井田南勝 大原宿工池	弘司夫助朋進 正武方之信	2 班	江南高 白新代田 置川津野小 姫路屋野山	北村尾田津山 本平池梅丸	明一義弘樹美 智清宗正芳喜	3 班	前曾野木 川谷小西小 豐川路津田小 姫野針山小
6 班	二葉針井 小宮浅井中 一新津才二 坂井輪小 管野木	野田木村藤妻 星平青上佐下	三子久郎夫均 大喜定二英	7 班	舟栄野小 島屋野小 竜野根岸中 白根井輪中 坂塚中	瀬高橋治津田 成林海成	進子治和信俊 経晴和	8 班	宮浦下谷小塚中 山鹿羽小塚中 川赤松
11 班	大形高座小 春井安空小 姫路中塚中 小赤野木	藤西村光川入口 国外波大	雄爾美蔵司文 秀精里恵信好	12 班	南浜山台小 和井藤安空小 姫路中塚中 小赤野木	小林山本田藤橋 小橋栗佐板	弘明雄子一治 光文幸静鈞	13 班	濁川山台小 春井藤城南小 姫路浦戸中 小赤野木
16 班	藤見東部 春日井豊浜 宮島浦野屋中 中野木	野倉田川下 佐名新藤広	宏雄彦正信孝 幹正	17 班	赤塚東部 春日井豊浦形中 宮島浦形中 大野木	米原林月山津越 小望内道舟	進男晃男雄吉 崇秀次継和	18 班	中野小屋部 春日井豊浜 宮島居形中 大野木
21 班	岩室知多 春日住吉小 静阿葉川中 二野木	本間村谷浦瀬 和河川植広	泰清雄朗子枝 計梧洋智	22 班	曾野木小知多 春日井小葉川生 東二濁教	丸宝野和 水野月藤田熊 望加池小	純男郎政男子 良逸三一久	23 班	丸瀧小知多 春日井五葉浜 静二南
26 班	PTA	野上悦夫 鈴木四嘉蔵 鈴野万寿雄 渡上三弥作 堀己三春男		27 班	PTA	收野十二代 小泉田美男子 野上上秋和子 猪股辰妙昌 栗林	28 班		

〃班編成

○印は班長

(敬称略)

戸丸豊佐田 川屋岡藤田 白丸正久光銀 衛雄克夫板二 女利正久光銀	4 班	野山井中 屋山附輪小 鳥石一見坂曾	野田野田 高菅山原小塩 十詢哲志アサ	野井中 居野淡西輪小 寄鳥一長坂曾	助功雄涼子 考貞定美昭 多野井藤木 本西白坂伊伏
田南小酒今大 中場林井井竹 源幸昌久喜敏 次三義司美夫	9 班	瀧瀬安中野小 新ヶ路中野小 東京姫燕内笠	潮夫男い寿浩 隆武る尚 保高田村沢谷 中小吉下三沢	下命安小塚小 山春日金五 委室小	夫己美毅ノ篤 吉克一シ孝 井原国川浦藤 吉秋豊宮松佐
澁田永佐白湯 沢田井藤倉田 介志夫吉輪勉 虔港辰裕之	14 班	川部浦戸中 川東安浦戸中 雨舛島宮木曾	純司正和江剛 政絶美松 岡田根藤山藤 本根山内若育	野井安浦戸中 野日島宮木曾 内春日宮木曾	一夫義助子次 誠徳忠奎洋昭 井高本村柳山 今右武京小村
宮細山濁佐小 川江根川藤田 雅幸正礼 晴右穂恒勉子	19 班	戸井奈屋川中 木春日高岡曾 東半利	新即達天清一 四幸依 島口藤川堀本 宮川五市橋松	泉井奈屋川中 泉井奈屋川中 五春日高岡曾	衛昭好武子助 文一美尚長 藤多川林藤行 加波塚小飯笠
坂小林卷谷 井林卷谷 健玲寅秀穎 次子三男子	24 班	根川五栄浜 根豊滋舟南 岸中五栄浜	泉仁進喜 豊 野白井 海津藤	輪中伊野小 坂井川田藤 坂豊島馬栄	殿司徹雄郎 昌勝太 水川河渡本 上津村辺小
	29 班			30 班	

部落バス 参観の班編成 11日附3:30~4:30 番号アカード前に集合して下さい (敬称略)

部落	民泊の方 (参観後そのまゝ残留)	民泊外の方	本校職員
1 丸 濁	龍野小宅 金治 鹿谷 小林 姫路城南 永井 ③	見島 附清屋 島蘭 " 島屋賢 原佐市 小杯 藤川 杯 藤澤	・宮下 孝 10分 ⑦
2 銅 濁	一宮浅井 山田 " 白井 " 青木 ③	多野 坂井 和田 内藤 野賢 刈谷 小杯	・松本 欺一 10分 ⑦
3 曾 川	豊川中部 白川津 " 代田 原平尾 " 千両 丸山 ⑤ 尾崎 日新 皆川	新江 上村 宮浦 宗加 葉 藤 針 佐 戸 小 塚 井 赤 今 雨 飯	・湯田 勉 徒歩 5分 25分 ⑨
4 高 木	高知 奈利 五蔵 " 堀川 静阿住 吉 河村 京小平 望月 ⑦ 名古屋 生 3名	中野 小 田 中野 山 塚 赤 小 針 京 小 瀨 根 岸 浦 宮 葉 輪 二 塚 塚 赤 大 河 川	・相越 和吉 徒歩 10分 25分 ⑧



学校要覧



1. 沿革の概要

昭和

- | | |
|---|---|
| <p>22. 5. 1 新潟県中蒲原郡曾野木村立曾野木中学校開校
(曾野木小学校校舎に併置)
初代 松本貞雄校長 曾野木小学校より着任
校章決定</p> <p>27. 5.21 創立5周年記念 校旗樹立・校歌制定</p> <p>30.12. 7 独立校舎12教室(普5・特7)竣工</p> <p>32. 5. 3 曾野木村新潟市へ合併により「新潟市立曾野木中学校」と改称</p> <p>32. 5.21 創立10周年記念 植樹</p> <p>33. 4. 1 松本貞雄校長勇退
2代 小林正平校長 寄居中学校より着任</p> <p>34. 3. 給食室竣工 給食開始(小学校と共用)</p> <p>36. 8.18 体育館竣工</p> <p>37.1.1. 創立15周年記念 植樹</p> <p>39. 6.16 新潟地震により校舎全体に大被害を受け、
6.23 体育館幕仕切授業再開
10.24 プレハブ4教室完成
3.10 本校舎復旧 引越し完了</p> <p>40. 6.10 新校舎(特別教室4・研究室4)完成</p> <p>41. 4. 1 小林正平校長勇退
3代 山田信重校長 新発田市立松浦中学校</p> | <p>より着任</p> <p>42.11. 5 創立20周年記念式典 祝賀会举行</p> <p>43.1.2.0 市指定研究体育研究発表会</p> <p>43.1.2.2 プール竣工式</p> <p>44. 4. 1 山田信重校長勇退
4代 戸川右兵衛校長 長岡市立大積中学校より着任</p> <p>44.1.1, 9 優良PTAとして県PTA連合協議会より表表を受ける</p> <p>45. 1.26 昭和44年度教育実践優良校として市教委よりトロフィーを贈られる</p> <p>45. 3.30 生徒便所新設完成</p> <p>45.1.0. 給食室の渡り廊下完成</p> <p>47.1.0. 6 市指定バズ学習(小集団)研究発表会</p> <p>47.1.0.19 創立25周年記念式典 祝賀会举行</p> <p>48. 3. 3 昭和47年度学習部門実践優良校として市教委よりトロフィーを贈られる</p> <p>49. 3.31 体育館用具室完成</p> <p>49. 4. 1 戸川右兵衛校長勇退
5代 大口好文校長 市教委指導課より着任</p> |
|---|---|

2. 教職員・生徒

(1) 教職員

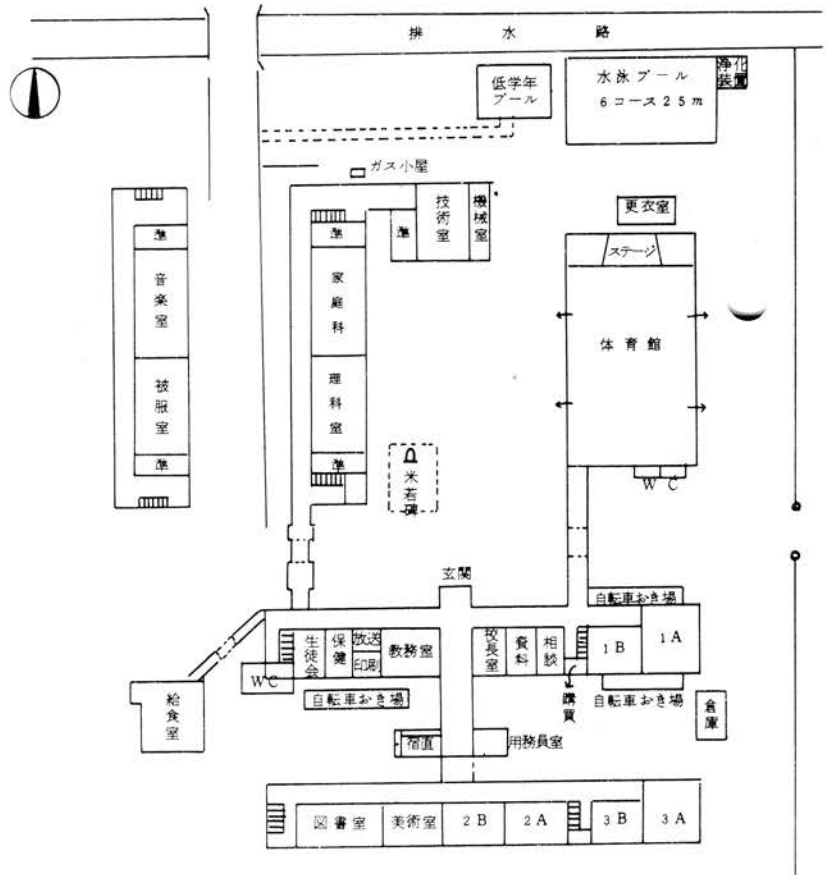
職名	氏名	現在校 勤続年数	担当 学年 教科 科目	担当学級	校務分掌	部活動	校外 分団	現住所
校長	大口好文	0.0						
教頭	板橋釣治	0.0	社会1A, 保健(全男) 国語1AB(文法)		総括, PTA			
教諭 進路指導主事	湯田勉	3.0	理科1AB, 2AB 技術3男	1年副任	教務主任		曾川	
教諭	村山昭次	0.0	英語(1B, 2AB, 3AB)	1B主任	一年学年主任 道徳指導部長	バレー部	団地	
〃	笠谷良助	1.0	理科3AB 数学3AB	3B主任	三年学年主任 視聴覚部長	野球部	楚川	
〃	舟越和吉	6.0	社会1B, 2AB 技術1男, 2男	2B主任	二年学年主任 学習指導部長	卓球部(男子)	嘉木	
〃	斎藤剛	3.0	社会3AB, 英1A 数学1AB	1A主任	図書館指導部長	バドミントン部	天野	
〃	松本欣一	4.0	国語2A, 3AB 数学2B	3A主任	生活指導部長	水泳部	鍋橋	
保健主事	宮下孝	0.0	体育全校 数学2B	2A主任	健康安全指導部長	陸上競技部	丸橋	
教諭	小田礼子	0.0	家庭全校 国語1AB, 2B	2年副任	庶務文書主任 給食指導主任	卓球部(女子)	鎌木沼	
〃	広瀬智枝	2.0	音楽全校, 保健(全女) 美術全校	3年副任	学籍主任 教科書係	プラス部	四ヶ字	
事務主事	平山順子	1.0			経理事務			
栄養士	巻口あさ子	1.0			給食			
技師補	長谷川泰子	0.0			健康・保健			
用務員	伊田準平	4.0						
警備員	刈谷佐太郎	1.0						
調理員	石沢トヨ	9.0						
〃	八幡トヨ	0.0						

(2) 生徒数・学級数

学年	男	女	計	学級数
I	46	41	87	2
II	40	46	86	2
III	40	47	87	2
計	126	134	260	6

3. 校地・校舎面積・図

総面積	16,257.9㎡
1人当り	62.5㎡
屋外運動場	8,727.3㎡
1人当り	33.6㎡
校舎	2,560.2㎡
1人当り	9.9㎡
体育館	631.4㎡
1人当り	2.4㎡



4. 校区の姿と生徒の実態

(1) 人 口

(4月1日現在)

学区小学校	行政区域内	人 口	生 徒 数	学区小学校	行政区域内	人 口	生 徒 数
曾野木小学校	天 野	1,156	38	丸瀧小学校	曾野木団地	2,109	59
	嘉 木	320	21		鐘木・上沼	220	14
	曾 川	701	35		丸 瀧	269	19
	楚 川	647	27		鍋 瀧	347	18
	四 か 字	613	29		合 計	6,382	260

(2) 地域環境と地域性

純農村であったこの地域も、市営住宅団地の造成により、過去5年間の社会的人口増は約2,000人を数えるほど急速に都市化が進んでいる。かつての農地は宅地にかわり、槌音の絶える日とてない。

しかし、保護者の50%が農業自営であり、市街化調整区域として残されている沃野は、稲作と40万市民の野菜供給地ともなっている。

都市化の波は、自営農家80%までを兼業化してしまい、近郊農業の将来性とからみ、学校まかせの子弟教育から地域課題にこたえる教育への期待が高まっている。

(3) 生 徒 の 実 態

○地理的・経済的に恵まれた環境は生徒の性格にも反映し、純真・素朴ではあるが、気力・根性においてやゝ欠けるうらみがあり、学習面では積極性・自主性に欠け温和で依存的である。

○近年、生徒会・部活動の成果を着々とあげるにおよび積極性が高まり、主体性・協力性も養われてきている。

(4) 卒業生の進路状況(%)

年度	全日制高校進学者	定時制高校進学者	自宅就業	就 業	各種学校訓練所等	在 籍	延
40	50(49)	27(26)	13(13)	30(29)	9(9)	103	129
41	65(76)	16(19)	1(0.01)	9(10)	1(0.01)	86	92
42	74(69)	18(17)	0(0)	21(20)	0(0)	107	113
43	56(69)	9(11)	0(0)	12(15)	6(7)	81	83
44	48(67)	10(14)	1(1.4)	10(14)	5(7)	71	74
45	73(71)	9(9)	1(1.0)	13(13)	6(6)	95	100
46	59(84)	4(6)	5(7)	2(2)	2(2)	70	72
47	59(76)	5(6)	1(0.01)	6(7)	8(10)	77	79
48	59(73)	9(12)	1(0.01)	1(0.01)	8(10)	73	78

5. 教育計画

(1) 教育目標

知力・体力・気力

- ・進んで学習する
- ・強健な心身を鍛える
- ・責任ある行動をする

自主性の啓培
人間尊重の態度育成
社会性の涵養

(2) 本年度の重点目標

〔自主的生活態度の確立〕

教育目標達成にせまるため、学習指導と生活指導を一元的にとらえ、自主的生活態度の育成をめざし、曾野木の合言葉、「その気(曾野木)・その意気・その力」をかかげ、自己自身と他への呼びかけとする。

その気……「やる気」である。内的主体的な自己意志の動機づけと決定である。

その意気……「自覚」である。目的をもった自覚のもとに、物事を計画的に進める態度形成と持続力・忍耐力などの意志形成である。

その力……「実践力」である。価値追求にいたる知力・体力・気力の実践力である。

(3) 努力目標 「全校集団づくりをめざす中でバズ学習の基本を身につける。」

1. 集団の組織化

- (1) 教師集団の共通理解を深める。
- (2) 生徒活動の充実。

- ア 学校行事を盛り上げる態勢づくり
- イ 学校生活上の諸問題の自主的なとり組み
- ウ 自主的な計画・協同・実践・反省・記録のシステムづくり
- エ スローガンの徹底
 - 「きびしい態度 あたたかい心」
 - 「全員参加・全員発言・全員行動」

- (3) 地域・父母の理解と協力の促進。

2. 課題を設定する。

明確なねらい ———— 構造化 ———— 課題
生徒の意識過程の吟味 ————

3. 学ぶ姿勢を確立する。(バズ法の訓練)

- 始業の合図で学習を始める。
 - 必要以外のことは話さない。
 - 止めの合図で前を向く。
- (1) まず考える。
 - (2) わからないことは聞く。
 - (3) 聞かれたら教える。
 - (4) 進んで発表し合う。
 - (5) そしてまとめる。

(4) 学習指導

自主的な学習態度の育成

1. バズ学習の基本を体得した学習指導の充実をめざして研究と実践を着実に進め意欲をもって積極的に学習する態度を養う。
2. 全校一斉バズ学習を毎日実施し授業へのレディネスを成熟させ、自主的な学習意欲と思考活動を高める。
3. 全校一斉復習バズの時間(第7限)を設定し授業と家庭学習の接点として課題解決に努める。
4. クラブの時間を充実しひとりひとりの個性を発揮させる。
5. 父母や地区の協力を得て部落バズの充実をはかる。

(5) 生徒指導

小規模校の特色をいかしたきめ細かな指導により自発性・自主性の発達を促し自己実現をめざして生き生きとした行動のできる生徒にする。

1. 学校生活に喜びを持たせる。
2. 生徒ひとりひとりがはっきりとした生活目標をもちその達成に努力するように指導する。
3. 学習指導と生活指導を一元的にとらえバズをとおして人間的ふれあいより親和感・信頼感をいっそう深める。
4. ひとりひとりに積極的に活動する機会と場をあたえ、全校生徒のまとまりを高める。
5. 健康・安全の関心を高め習慣形成をめざす。

(6) 進路指導

1. 生徒の能力・適性等の的確な把握につとめる。
2. 進路指導計画に基づき組織的・計画的に生徒が進路選択できるように指導・援助する。
3. 進路相談の充実

(7) 環境の整備充実美化

- ① 校 地……玄関前の造園（生徒の憩の場）・校長室前中庭の整備。
- ② 校 舎……清掃の徹底・掲示活動の充実。
- ③ 備 品……使用に便利で安全な保管・活用のくふう。

(8) 教科・道徳・特別活動の時間配当表

学年	必修教科								選択教科		特別教育活動			合計	○前期 20 週保体 4 学活 1 ○後期 15 週保体 3 学活 2
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健	技術	英語	小計	道徳	学活	クラブ		
1	5	4	4	4	2	2	4 3	3	4	32 31	1	1 2	1	35	
2	5	4	4	4	2	2	4 3	3	4	32 31	1	1 2	1	35	
3	5	5	5	4	1	1	4 3	3	4	32 31	1	1 2	1	35	

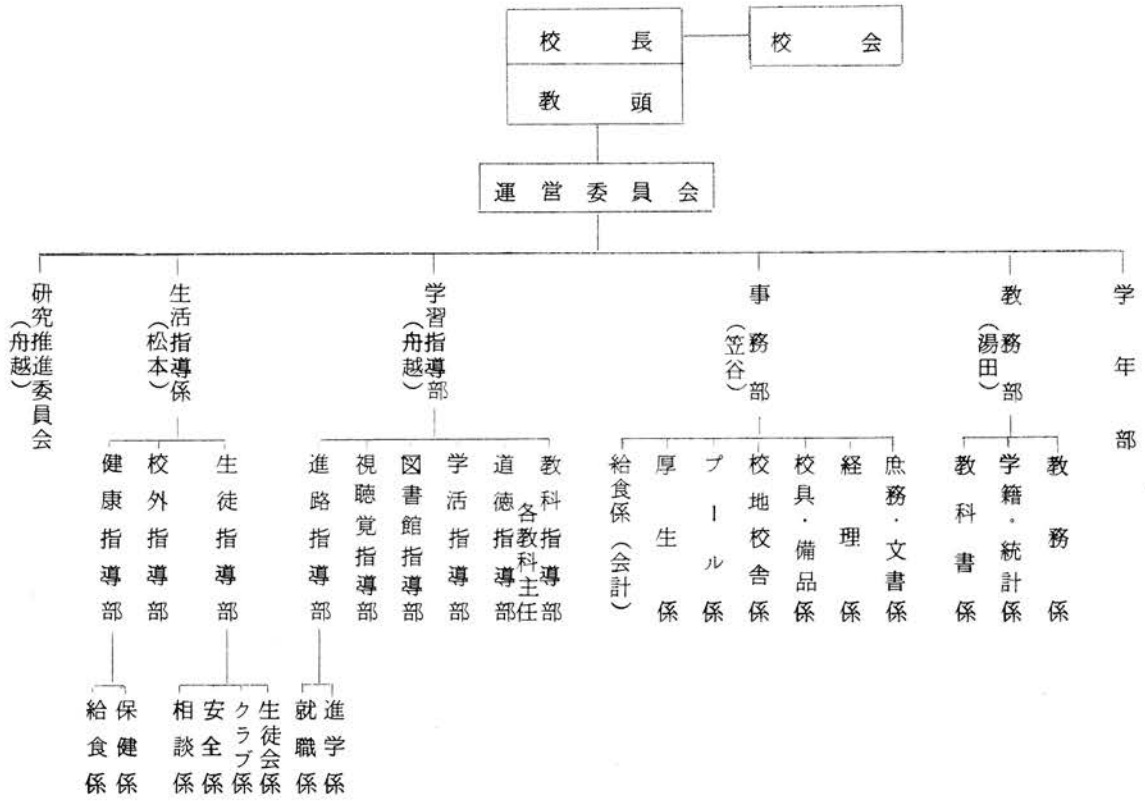
(9) 校 時 表

八・二〇	八・三〇	八・三〇	八・四〇	八・四〇	九・三〇	九・四〇	〇・二五	〇・三五	一・一〇	一・二〇	一・一〇	一・五〇	一・一〇	一・五〇	二・一〇	二・五〇	二・五〇	三・四〇	三・四〇	四・一〇	四・三五
登校	自主学習	職員朝会	学活	一限	二限	三限	四限	給食	休憩	五限	六限	復習(七限バズ)	学活	清掃	休憩	火曜の7限はクラブ活動(45分)					

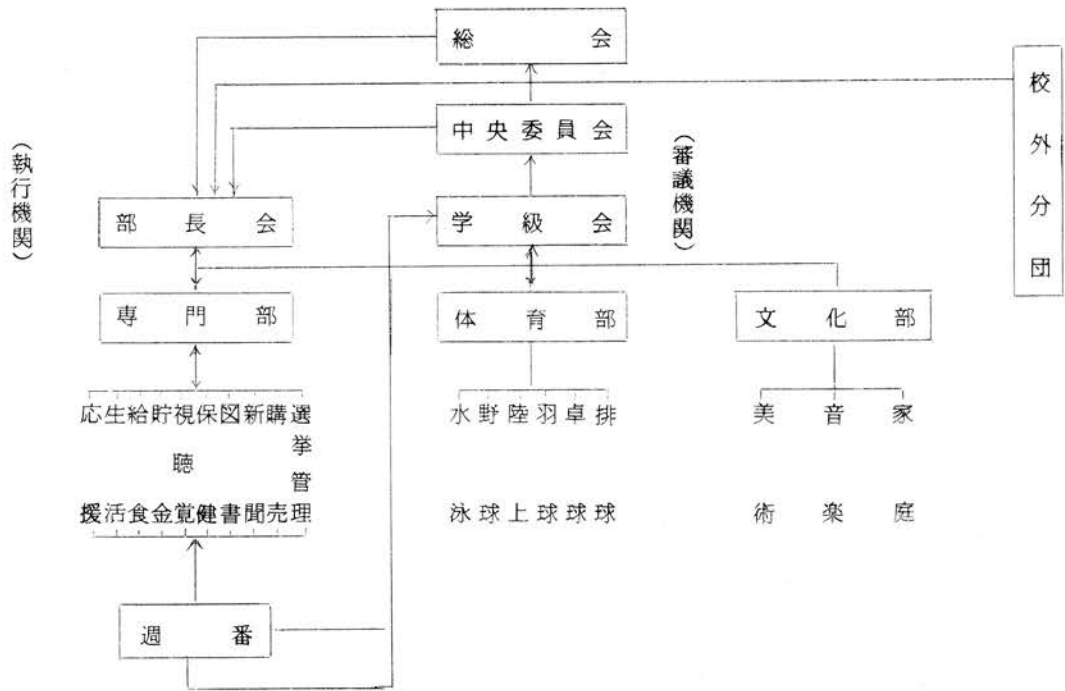
(10) 年間行事計画

- | | | | | | | | | |
|---|--|--|--|---------------|----------------------------|--|---|---|
| 4 始業式 新任式 離任式
大清掃
入学式
身体計測 校医内診 | 5 3年修学旅行 1・2年遠足
地域班集会
ツ反接種判定
3年血液型検査
創立記念日 記念記録会
知能検査 | 6 中間テスト(1学期)
家庭訪問
歯牙検査 X線撮影
避難訓練
市内中学校春季体育大会
観劇
小中懇談会 公開授業 | 7 3年職業講話
3年職業適性検査
父親学級
期末テスト(1学期)
地域班集会
終業式 | 8 全校召集日 学年召集日 | 9 始業式 大清掃
市内中学校秋季総合体育大会 | 10 秋季運動会 写生会
秋季遠足
中間テスト(2学期)
職業相談 | 11 地区文化祭 バザー
インフルエンザ予防接種
就職面接指導
クロスカントリー | 12 合唱コンクール
期末テスト(2学期)
教育相談
終業式 大清掃 |
| 1 始業式
冬休み反省テスト
3年 身体計測 健康診断
進学者査定会
3年期末テスト(3学期) | 2 新入生入学前準備
地区PTA研修会 | 3 就職生激励会
1・2年期末テスト
卒業生を送る会
卒業式
終業式 大清掃
新学期準備 | | | | | | |

(11) 学校運営組織



(12) 生徒会組織



「嘉木部案」

I 第一課題「兄弟げんか」

「あるところへ、ある人が来た。その人が、何かを言った。その人が、何かを言った。その人が、何かを言った。」
(兄弟げんか) (兄弟げんか) (兄弟げんか)

「兄弟げんか」の理由 (自分の気持ち)

「兄弟げんか」の理由 (自分の気持ち)

「兄弟げんか」の理由 (自分の気持ち)

II 第一課題「女らしさ・男らしさ」

「女らしさ・男らしさ」の理由 (自分の気持ち)

「女らしさ・男らしさ」の理由 (自分の気持ち)

力A 読者

用 5.47 10月1日

June

11月の

① 定価 夫は

了り 11月

が又、生

②

11月 10月 1日

11月 10月 1日

11月

11月

11月

11月

11月

11月

11月

11月

11月

11月

138

1. 凡在... 均有...
 2. 凡在... 均有...
 3. 凡在... 均有...
 4. 凡在... 均有...
 5. 凡在... 均有...
 6. 凡在... 均有...
 7. 凡在... 均有...
 8. 凡在... 均有...
 9. 凡在... 均有...
 10. 凡在... 均有...

1. 凡在... 均有...
 2. 凡在... 均有...
 3. 凡在... 均有...
 4. 凡在... 均有...
 5. 凡在... 均有...
 6. 凡在... 均有...
 7. 凡在... 均有...
 8. 凡在... 均有...
 9. 凡在... 均有...
 10. 凡在... 均有...

1. 凡在... 均有...
 2. 凡在... 均有...
 3. 凡在... 均有...
 4. 凡在... 均有...
 5. 凡在... 均有...
 6. 凡在... 均有...
 7. 凡在... 均有...
 8. 凡在... 均有...
 9. 凡在... 均有...
 10. 凡在... 均有...

1. 凡在... 均有...
 2. 凡在... 均有...
 3. 凡在... 均有...
 4. 凡在... 均有...
 5. 凡在... 均有...
 6. 凡在... 均有...
 7. 凡在... 均有...
 8. 凡在... 均有...
 9. 凡在... 均有...
 10. 凡在... 均有...

嘉木部落について

地蔵様の由来

現在嘉木部落の山田八助甫に地蔵様が有る。古老の話によると、昔比の近くに盗族がいて人々を悩ましたので高野清四郎が比れを退治してこの地にうすめ其の上に地蔵様を立て其のいこんをなぐさめたと云う。嘉木部落と新洲部落との間に古屋敷と言ひ地名が有て昔比の地を上野田と言て比の部落の人々の骨とうすめた所にして近年地蔵様を立て供養した。

学校碑

嘉木の鈴木純亮さんお進々なるめ教育に対する理解とけん身的な奉仕にまて果でもはすかしくない学校を農村(嘉木)に作る事ができ、手代清吉郎・姥ヶ山など教ヶ所に分校を作ることに努めらるるとも、自費舎は本校としての面目をなぐさめないようにとたいへん苦心をこらえていました。その一つとして次のような話があります。

考てかば早く残さぬと云ふ世に於ては「女は勉強など、
なぐともよい」といひませう。「世に於ては事々えこ手に振れはいいから手廻
はせよ」と思ふてよい」ともいひました。それでせうかく学校を作つても入
学する人はほんのわずかであつたといふことでも。そこで鈴木さんら
等習ふアガさを母えらふに、又其の全議や分枝巡りなどおかけする時日
さかんに馬を利用されたので、それで鈴木さんの夏には、大きく立派
な馬こやかあ、たせうです。

このように学園の大切がわうぬ「宿舎」といふ学校を作つたさかいた
のて村の人たちから尊りのされその功績をたてていつとけなした。
「学校様」「学校様」と呼ばれるようになりそれから百年の月日が流れた
今も「学校様」「学校様」といふ屋号は、村の人たちで呼ばれ住まっています。

考ふが早く残つてゐる。百姓には「百姓は仕事で上手になればいいから字間
はどほしなくよよい」といひました。それでせ、かく字校を作つても入
字する人はほんのわずかであつた。たといふことです。そこで鈴木さんは
字間の大切さを教ふるために、又集の全議や分校巡りなど出かける時
は、さかんに馬を利用されたさうです。それで鈴木さんの妻には、大きく立派
な馬ごやがあつたさうです。

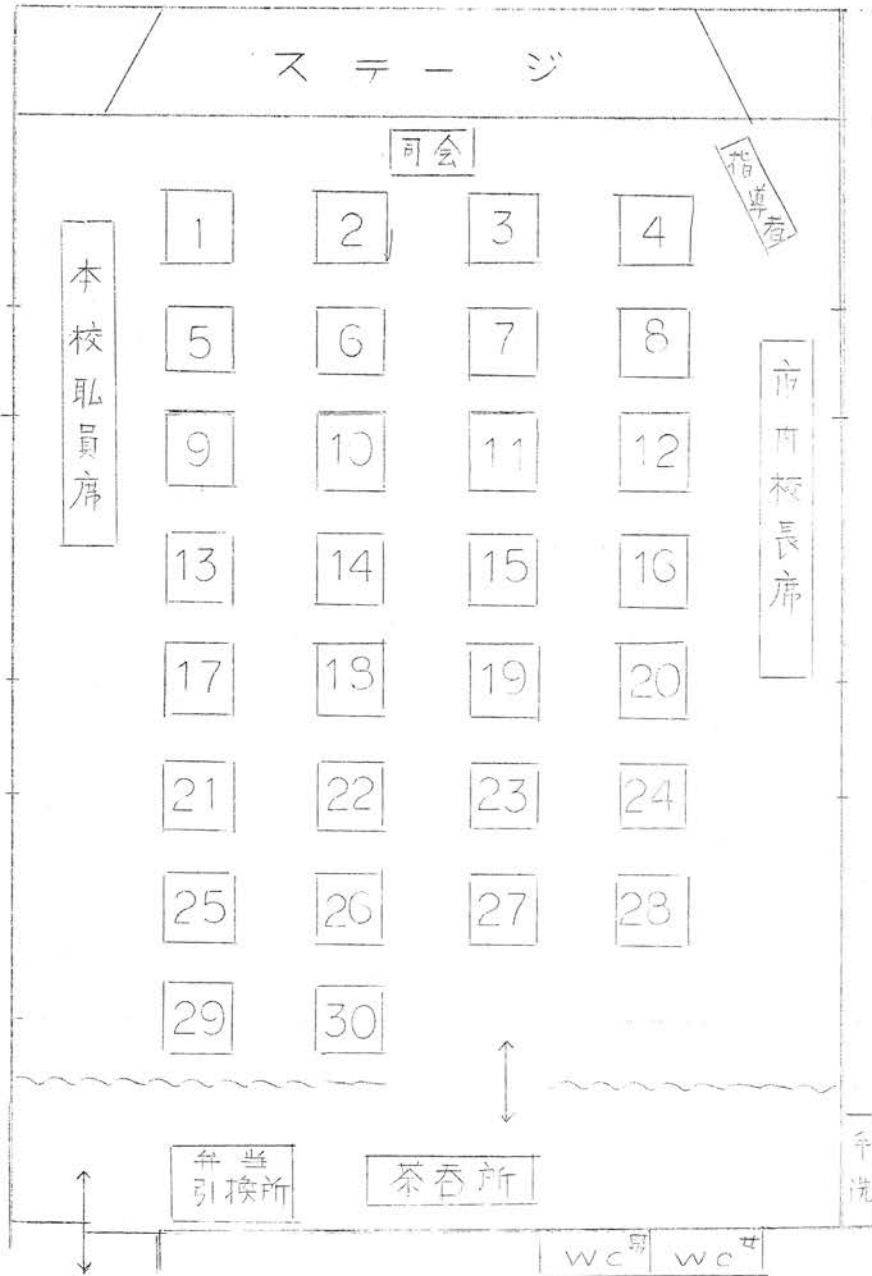
このように字間の大切がひらめいた。「省察舎」といふ字校を作つたりさかいた
ので村の人たちから尊けいされその功績をたたえていつとけなしに
「字校様」「字校様」と呼ばれるようになりそれから百年の月日が流れた
今も「字校様」「字校様」といふ屋号は、村の人たちで呼ばれ生きています。

授業をみる視点

次の視点から授業をご覧になって ご批判ください。

- 子どもがどう活動したか。
 - ひとり、ひとりの子どもが どのように自主的に思考し創造しているか。
- 1 バズへの参加度はどうか。
 - 班内全員が参加しているか。
 - バズ長は どんな役目をしていたか。
 - 相互の教え合いが行なわれているか。
 - 疎外されている生徒はいないか。
 - 2 理解が促進、拡大されているか。
 - 話す内容がみくまに理解され 深まっているか。
 - 課題を解決するための思考が促されているか。
 - ドリルや練習が 能率的か。
 - 目標からはずれた 話し合いをしてはいないか。
 - 3 学習態度はどうか。
 - 協力的であるか。
 - 自己表現が活発になされているか。
 - 相互に信頼し合う 人間関係ができているか。
 - 聞く、話す態度が できているか。

全体会場 バス編成班



- 備考
- 弁当はここ一ヶ所で引き換えています。
 - 食事は体育館で おあがりください。
 - アトラクションが計画されています。
- 地元 民謡同好会一同
当校 ブラスバンド演奏。

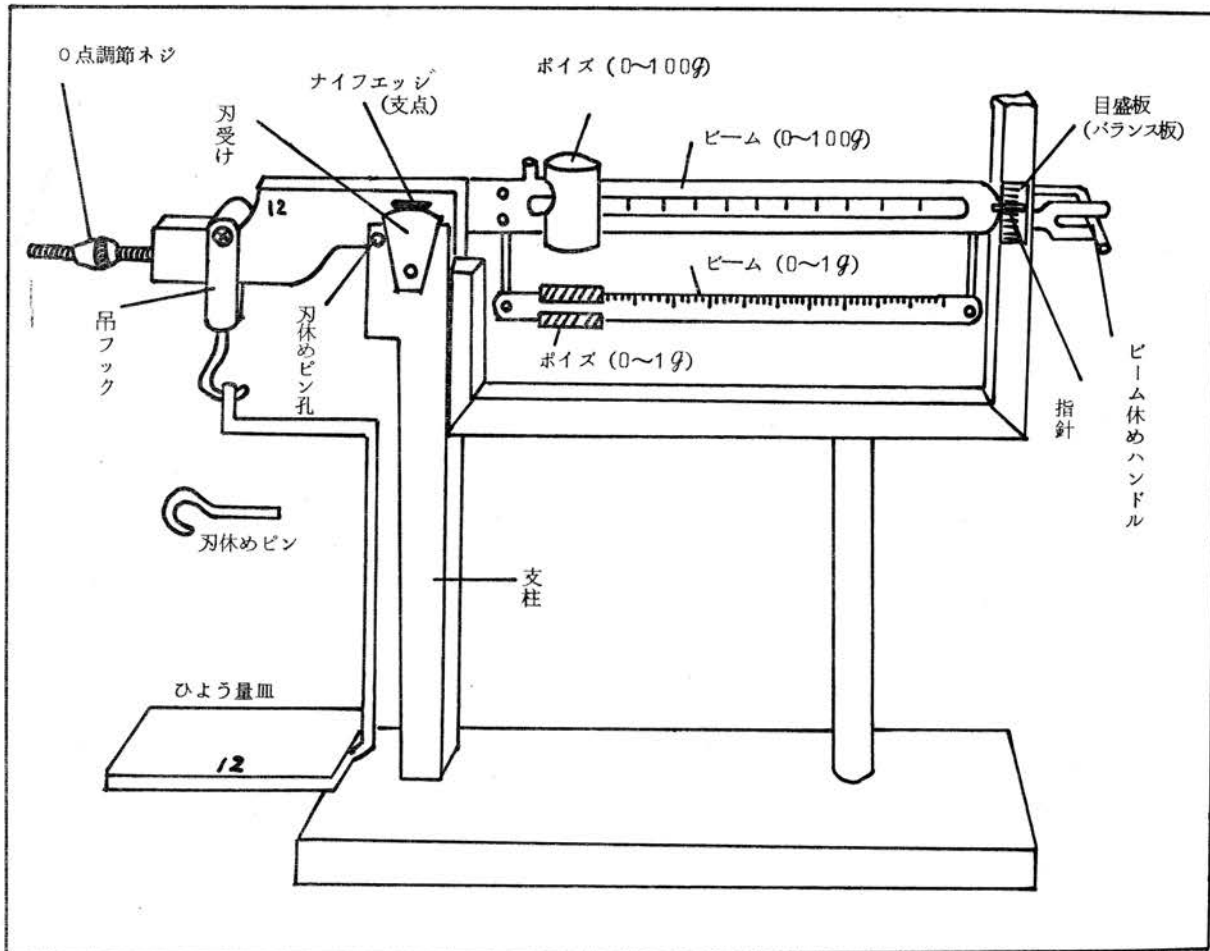
曾野木中学校

本日は、私たちの研究会にご参加くださりましてありがとうございます
ございました。つきましては、私たちの今後の研鑽のために、ど
んなことでもけっこうでございますので、お気付きのことをお放
えくださいますようお願いいたします。

学校名		氏名	
-----	--	----	--

おそれいりますが、お書きいただきましたら、全体会場入口に箱を
用意してありますので、ご投函くださいますようお願いいたします。

精密ばかり



使用法

1. 精密ばかりの各部の名前を覚える。
 2. 支柱の上部(刃受け部)、ビーム、ひょう量皿の吊フックつりにそれぞれ同数番号がついているから必ず確認する。
 3. 使用するときは、水平面で安定した台に置く。
 4. 刃休めピンをはずし、支点のナイフエッジを、刃受けの中央に静かに置く。
 5. 吊フック、ひょう量皿をのせる。
 6. 100gと1gのボイズをそれぞれ目盛り0に合せ、次にビーム休めハンドルを静かに右の方に回わしてビームからはずす。この時、指針がバランス板の中央よりずれている場合は、調節ネジで調節する。
- (注) 0点調節ネジ、ボイズ等を動かすときは、必ずビーム休めハンドルをビームにか

けて、ビームを静止させてから操作を行う。

7. 0点調節ができたなら、ビーム休めハンドルをビームにかける。
8. 試料をひょう量皿にのせ、100gポイズを目分量で合せ、静かにビーム休めハンドルをはずす。その時ビームが上がれば、試料が重いからビーム休めハンドルをビームにかけポイズを右にずらせる。この操作をくりかえして指針が、バランス板の範囲内で止まるようにする。さらに、1gポイズで指針を0目盛に合せ、質量を読みとる。
⑨ 試料をひょう量皿にのせるとき、または取り除くときは、ポイズを動かすときと同じように、ビーム休めハンドルをビームにかけて行う。
9. 使用後は、必ず刃休めピンをはめ、さらにビーム休めハンドルをビームにか^{つり}け、吊フック、ひょう量皿をはずしておく。

顕微鏡の使い方

1. 顕微鏡のはいた箱の持ち運び方

箱のかんを持って下げると、かんがはずれるおそれがあるから、箱のとびらを胸にあてて、箱をだくようにして持つ。

2. 使用法

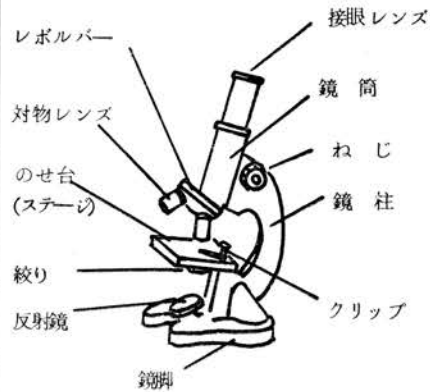
(1) 顕微鏡を箱から取り出し、安定した机におく。この時、右手で鏡柱をにぎり、左手で鏡脚をささえる。鏡柱を手前にして、机の端から10cmくらいの所で光のくる方向に正しく置く。直射日光のあたる所は避ける。

(2) 接眼レンズのわくの上の縁を持って、静かにはめる。次に対物レンズをはめる。

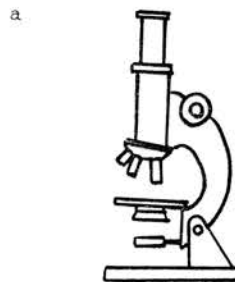
対物レンズをはめるには、左手の中指と人差指の間にはさみ、右手でねじこむようにまわしながらはめる(2図a)、箱は机の下にしまう。

(3) みやすい傾きにする。次に絞りを全開し、接眼レンズをのぞいて、両手で反射鏡の向きを調節して、視野を最も明るくする。(2図b)

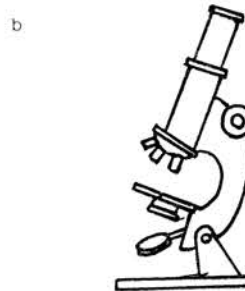
1図 顕微鏡の名称



2図 顕微鏡の取り扱い方



接眼レンズをつけ、次に対物レンズをつける。



みやすく傾け、反射鏡で視野を一番明るくする。

- (4) プレパラートをステージにのせ材料が対物レンズの真下になるようにして、クリップで押さえる。
- (5) 対物レンズの先を横から見ながら、ねじを向側にまわして鏡筒を下げ、プレパラートにできるだけ近づける。
⑨ 検鏡にあたっては、まず低倍率でプレパラートの全体を観察し、つぎに倍率を高めて物体の細部をみる。
- (6) 接眼レンズをのぞきながら、ねじを手前に静かにまわして、鏡筒を上げ、ピントを正確にあわせる。
⑨ こうしないとプレパラートを割ったり、レンズをいためるから特に注意する。
- (7) プレパラートを動かして、物体の各部をよく調べて、観察する位置を決め、プレパラートをクリップでとめる。
⑨ 顕微鏡をのぞくときは、両眼を開いたままで、左眼でみる、これはスケッチをする時に必要です。
- (8) 倍率が適当でなければ、レボルバーを回わして、高倍率のレンズを変える。倍率を変えたら、反射鏡や絞りを調節しなおす。
- (9) あと始末は、対物レンズをとりはずし、接眼レンズを取ってすぐにキャップをはめる。こうして、顕微鏡の箱に入れる。

3. 実 習

- (1) もめん糸を1cmぐらいに切って、スライドガラスの上に置き、水を一滴たらして、カバーガラスをかけて、100倍ぐらいで検鏡する。
- (2) もめん糸を1cmぐらいに切って、(1)のもめん糸と十字に交ささせ、水を一滴たらして、同じ倍率、同じ鏡筒の位置でカバーガラスをかけて検鏡する。この状態では、たてのもめん糸がボけて見える。
- (3) 鏡筒を上げて、たてのもめん糸にピントをあわせる。今度は横のもめん糸がボけて見える。これを顕微鏡の深度という。
倍率が大きくなればなるほどひどくなり、厚いプレパラートでは観察しにくい。

⑧ 顕微鏡の倍率は、大きさではなく、各部分がどれだけくわしく見えるかを意味している。

(4) スライドガラスを左右、上下に動かしてみよう。

4. 一時プレパラートの作り方

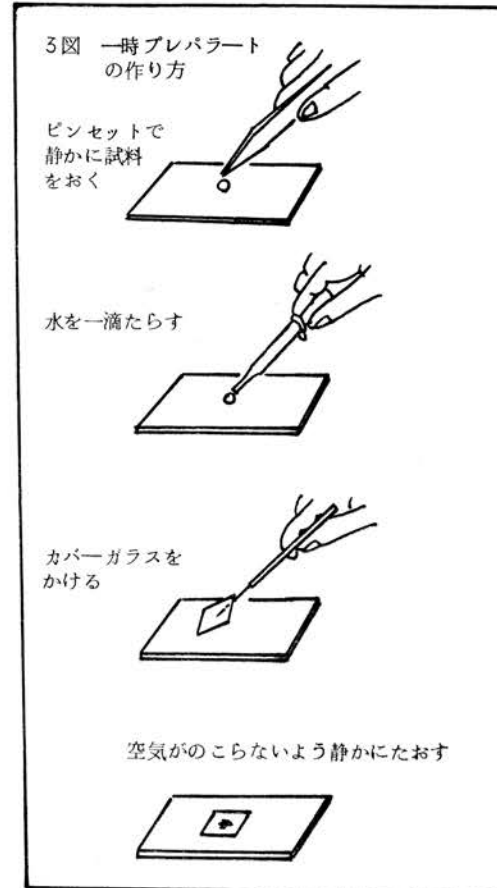
スライドガラスの上に薄く切った試料をピンセットで静かにのせる。つぎにこの上からスポイトで一滴の水を静かに落とす。この上からカバーガラスを静かにのせて、水を2枚のガラス間に完全に行きわたらせる。

⑨ スライドガラス、カバーガラスの表面についている水は、吸収紙かガーゼで吸い取ってから、プレパラートをステージの上のにせる。

5. スケッチ

観察したものは、必ず記録をとる。スケッチは左の目で顕微鏡を見て、右の目で書く。注意する点は、その特徴、大きさ、割合、液、場所、形、色などをはっきり見ることから始まる。スケッチは、じょうず、へたは別問題として、今かこうとしているのは何かをはっきりきめることである。

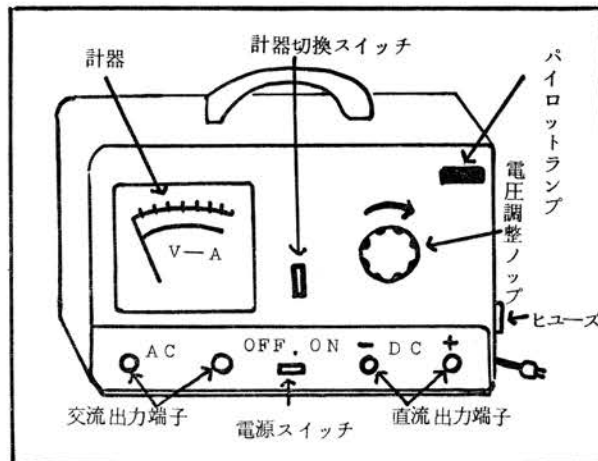
鉛筆は2Hを使用し、先をよくとがらせて書く。線は一本線で書き、線に切れ目のないようにし、おうとつや丸味などはすべて線の動きで表現するように心がける。



電源装置

1. 使うまえの点検

- (1) 電圧調整ノブを低の方向（矢印の反対方向）へまわし、電源スイッチをOFFに位置させてから側面のコードを電源に継ぐ。
- (2) 電源スイッチをONにするとパイロットランプが点灯する。



⑧ パイロットランプが点灯しないときは、差し込みまでの電源の故障、ランプのゆるみ、断線などが考えられる。

- (3) 計器切換スイッチをV・METERに移動させ、電圧調整ノブを矢印の方向へまわして電圧計の読みにより出力側の点検をする。
- (4) 電源スイッチをOFFにして、電圧調整ノブを低の位置にもどす。

⑨ 計器の目盛板は、交直両用であるので、よく確認をして、まちがえないようにする。

2. 実験器への接続の仕方

- (1) 出力端子にリード線を継ぎ実験器と接続する。この場合、本器の出力端子は交流、直流別々になっているから、使う電流の種類により交流ならばAC OUT PUTへ、直流ならばDC OUT PUT（+、-を確かめる）の端子へそれぞれ継ぐ。
- (2) 実験器の配線の状況、短絡の有無、直流出力の場合の+、-など結線をよく確かめる。
- (3) 電源スイッチをONにすると、パイロットランプが点灯する。計器用切換スイッチを、V・METER側へ移動し、電圧調整ノブを矢印の方向へまわして電圧計の振れを見ながら、実験に必要な電圧まで高める。
- (4) 計器切換用スイッチを、A・METER側へ切換えると、使用中の電流を測ること

ができる。

- (5) 実験が終わったら、電圧調整ノブを低の方向へまわし、電源スイッチOFFに切換え、コードを電源からはずす。

3. 使用上の注意事項

- (1) 実験中は、なるべく計器は電流計として働かせ、過大な電流が流れないように常に注意する。
- (2) もし、過大電流が流れてヒューズが飛んだ場合、すぐその原因を確かめてからヒューズを取りかえる。
- (3) 電圧調整ノブは回転角 140° の範囲で回転するようになっている。それ以上無理に回さない。
- (4) 実験終了後は必ず電圧調整ノブを0の位置へもどしておく。

はばたき

昭和47年度

鍋沼新田部落バリエーション文集

はじめに

松本

思えば、昨年六月、舟越先生のご指導のもとに、鍋沼において部落バスが発足した当時、私たちには、その意義を理解することができず、五理霧中の中を、試行錯誤しながら歩きはじめました。それでも、私たちは、その得休の知れぬものに挑戦してみようという意気込みだけは持ちあわせておりました。そして、私にとっては、常に、生徒たちと父母の方々が心のささえとして大きな役割をはたし、部落バスに出席することが楽しくなり、そこで何か貴重なものを学びとれるのだという確信を強めてくれました。

活動の中には、数々の困難はありましたが、一・二年生が「三年生を送る会」を企画・実践し、石垣豊君が「父母と生徒が心も体も一つになって同じことがやれる。」と、述べていることに私は、部落バスの真の意義を悟りました。私たちが大切にしなければならぬのは、単に、知識や技能を磨くことだけでは不十分です。もっと大切なのは、人間としてどう生活に取り組み、人と人とのつながりをどうやって深めて行くかという、現代社会の中ではややもすると忘れ去られようとするものなのです。また、いかにして、自分自身を成長させ、鍛え上げて行くかという意欲なのです。

めんどうだからといって、活動に飛びこまなかつたら、このすばらしさを発見することはできなかつただろうと思ひ時、我々は、行動すること、活動することによって、ものを学び取るのだということを再確認させられました。とはいっても、鍋沼部落バスに問題がないわけではありません。しかし、生徒と父母の熱意さえあれば、どんな難題をも克服して立派に育て上げて行くことができます。私は、そのエネルギーに限りない期待をもって、今後ともその活動に参加させてもらいたいと願っております。

最後に、この文集が生徒と父母、そして私たち教師も含めた三者が一体となってできあがったのだという、ことを喜びとともに、名実ともに、これが「第一集」になることを心から希望しつつ筆を置きます。

目次

はじめに	松本欣一	1	◎われわれの部落バス	石垣 豊	19
◎鍋湯部落バス これいぢぢぢ			「卒業生のことば」		
「四十七年度鍋湯部落バスの歩み」		3	◎鍋湯部落バス万歳	渡辺みこ子	21
。オ一回生徒会議		3	。部落バス		
。鍋湯部落父兄総会		3	「われにわたりの 部落バス」		
。オ二回生徒会議 決定事項		3	。鍋湯部落バス	齊藤 政弘	22
。オ一回 部落バスくろオ六回		5	。部落バス	白倉 智光	23
。地域の子ども	西脇 威	6	。部落バス	円山 敏明	23
。父母と生徒の部落バス	舟越先生	7	。部落バスについての私の意見	斎藤ともし子	24
。部落バス「鍋湯」	石垣 豊	8	。部落バスについて	佐山 佐智子	25
。オ七回 部落バスくろオ二十八回		9	。鍋湯部落バス	平井 裕子	26
。バス学習の研究会を終わって 舟越先生		13	。部落バス	斎藤 桂子	26
。オ二十九回 部落バスくろオ三十六回		14	。部落バス	斎藤 美鶴	27
。バスノートより、			◎鍋湯部落バス	青木 恵子	28
SUNDAY MARCH ELEVEN			「父母の立場から」		
石垣 豊		17	。バス学習について	平井 テル	30
山田 登		18	◎鍋湯部落バス学習の想い出	石垣 昭一	30
。部落バス			◎感想	西脇 威	32

おお、部落バズ

このいらねん

四十七年度 鍋湯部落バスの歩み

五月二十三日

- 部落の生徒会議をもち
- 部落バス、やることに決定。(父母の承認を得る
よりに先生にお願いする。)

五月三十日

- 鍋湯部落 父兄総会
- 部落バス学習実施、承認を得る。
(十九名中十四名山席)
- 部落バスについて説明
- 実施方策について協議、(運営委員を決定)

。運営委員

- 班長 西脇 威 副班長 円山富男
- 文化部 石垣昭一 鷺津年雄
- 補導部 斎藤 敏 平井治一

六月二日

生徒 会議をもち

。決定事項(鍋湯部落バス実施方法)

(1) 部落バスの形態

- ア、日時、毎週土曜日、午後七時〜九時
- イ、場所、鍋湯公民館
- ウ、部落中学生全員参加
- エ、内容

(ア) 学習バス約七十分(二教科or五教科)

。先生から出してもらった二教科の課題をやる場合、

- ・課題プリントの自主学習(十五分)
- ・班毎に話し合い(十分)
- ・答え合わせ(五分)
- ・休憩(五分)

これをくりかえす。

。その週の学校検業の復習をやる場合

- ・その週の学校検業の復習(三十五分)
- ・休憩(五分)

これをくりかえす。

(イ) 生活バス約三十分

。司会(正 or 副分団長)

。順序

- ・班の話し合い
- ・全体の話し合い
- ・助言(父母)

。内容

- ・学習のこと
- ・態度のこと
- ・部落バスの向上に関すること

必ずやる

(ウ) 清掃 全員

(エ) 日誌 当番制

三年 → 二年一班 → 二年二班 → 一年

(2) 生徒の係

ア、学習係

—— 担当教師の指導で、学習バスの課題プリント作成・配布

イ、リーダー——校外分団長になる

・当日の運営

・学習バス、生活バスの司会

・清掃割当の権利

・日誌の点検

・先生、父母との連絡

・決定事項の交渉

ウ、バス班

—— 学年単位とする。

・男女混合

・バス長を決める

・各分班（日直など）

・ルールを身につける

（バス学習六ヶ条）

・その他

(3) その他

ア、六月十日に第一回評議バス実施の予定

イ、学習内容

・六月十日・十七日は、初めだから、先生が

ら課題を出してあげる。以後は一週間ごと

に、学校授業の復習、先生からの課題をや

る予定

・勉強する科目は、国語、社会、数学、理科

英語の五教科とし、先生から課題を出して

あげる場合は、その内の二科目を出してあ

げる。一日で終わらせる。

ウ、課題を出してあげる際の教科担当者、及び

各教科をやる順序

（下の表参照）

3 年	2 年	1 年	学年
社会 英語 理科 数学 国語	社会 英語 理科 数学 国語	社会 数学 国語 理科 英語	教科
渡辺みよ子 平松恵子 齋藤隆 青木敏博	青木恵子 西脇美子 齋藤政私 石垣美代子 齋藤久雄 白倉智光 円山敏明	齋藤弘美 佐山智子 齋藤美鶴 平井裕子 齋藤桂子	担当者

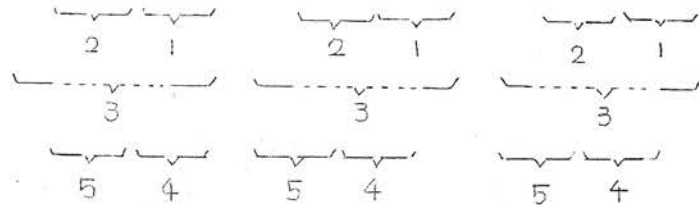
(4)

ア、生活バスの内容

イ、学習面

- 1、よく協調できたか
- 2、進んでたか
- 3、気持ちよく教えたか
- 4、無駄話をしなかったか

くりかえす



実施の順序

六月十日、第一回部落バス

- 5、時間の配分はよかつたか
- 6、声の大きさは適度であつたか
- 7、まとめることができたか
- 1、全般
 - 1、今日の学習はどりであつたか
 - 2、学習係におねがいすることはないか
 - 3、部落バスをよりよくするための対策
 - 4、部落や父兄におねがいすることはないか
 - 5、今日の学習、その他について父母の感想
 - 6、連絡——今日の日直
 - 7、先生のお話

- 1、生活バス
 - (1)、問題がむずかしく、時間配分がよくない
 - (2)、学習係は、課題に目を通しておいてほしい
 - (3)、部落へのおねがい
 - ア、細戸がほしい
 - イ、便所に照明をつけてほしい
- 2、感想
 - (1)、生徒
 - ア、遅刻者がいた
 - イ、少し、無駄話があつたが、まじめだつた。
 - (2)、父母
 - ア、声が大きすぎる。
 - イ、遅刻者がいたことは残念だが、期待がもてそつた。

六月十七日、第二回

- 1、生活バス
 - 。一、二年生の課題がむずかしすぎる。
 - 。遅刻がめだつが、学習は真剣だ。

六月二十四日、第三回

- 無越先生と共に、校長先生が参観にこられる。
- 1、生活バス
 - 。学習係は、どりやるか先生に聞いてきてほしい。
 - 。時間配分がよくない。
 - 。遅刻者がまだ多い。
 - 。来週は、テストをまじめにひかえているので、部落バスは休みとする。
- 2、感想
 - (1)、生徒
 - 。五教科全部を復習することはできない。
 - (2)、校長先生
 - 。自転車の置き方が悪い。
 - (3)、父母
 - 。学習中に雑談がきこえた。
 - 。発表する時は、もっとはつきりと遠慮しないで言った方がいい。

七月八日、第四回

- 1、生活バス
 - 。課題が簡単な学年は、時間があまつた。
 - 。声の大きさがあまりよくなかつた。

。男女が分かれてやっている学年がある。

2. 感想

(1) 生徒

。七時にちゃんと学習ができるようにしてもらいたい。

。自転車の一列目の置き方はよい。

(2) 父母

。みんな熱心に勉強している。

。無駄話が多いよりだ。

。自転車の置き方をもう少しきちんとしてもらいたい。

七月十五日 第五回

1. 生活バス

。学習係は、持って来るものを連絡してほしい。

。三年生は、一週間の学校授業の復習の代わりにセミナーをやることにする。(次の次から)

2. 感想

(1) 生徒

。無駄口が多い。

(2) 父母

。自転車がきちんと並んでいて、とてもよい。

七月二十二日 第六回

。感想

(1) 生徒

。無駄話が多い。

(2) 父母——西脇 威

。自転車の置き方がよくなった。

。写真をとったのは、全国大会の資料にすつた

めである。

。くつをそろえてぬぐうのに心がけてほしい。

。みんながハキハキしていてよい。

この頃までのことを、PTA部落班長の西脇威氏は地区育成会より次のように書いています。

今まで、子供たちのこととなるとあまり関心もなく、仕事におわれてほったらかしであった。ところが、今年はどういう風の吹きまわしか、僕のところにも中学校の部落班長が歸って来た。

さて困ったと思つて居るところ子供たちより先生を通して、部落バスの話が来た。早速、部落の父兄の皆さんからお集まりをお願いし、三人の先生をかこんでいろいろと協議をしていただき、子供たちの要求を受け入れてバス学習を許可した。それから一ヶ月半経過した。

そこで、バスを通して見た子供の様子をちょっと書いてみることにした。どこの子供もそうだろうと思うけど、中学生ともなると朝は七時頃にならぬと床から出て来ぬ。朝食は

そこそこに「行って来ます」である。クラブを終わって帰って来る時間は場所によって違ふだろうが、僕たちの部落は遠いので夕方もやや遅くなる。

ところが、土曜日はけっこう早いらしく、バスの時間には間に合うらしく、集まって来る。まず、集合時間少々前からボンボンと公民館に入つて来る。掃除をして薄べりを敷き机を並べて藍布とんの上にあよこなしとすわりこんで、三年生のリーダーの合図で勉強を始める。学習バス生活バス、まとめて各班の発表、父兄、先生の感想で終りである。

なかなか一生懸命に勉強をしている様子を目の前で見て居る時、これから社会人として立派に巣立つことを祈らずにはいられない。

生徒と父母の部落バス

舟越先生

嘉生の校外分団で部落バスをやりたいという事ではじめられてから他部落でもつきつきと実施することになりました。

現在では、五部落の生徒が部落バスを決定し、四部落が実践しています。実践している部落は嘉木、鍋淵、楚川、四ヶ字です。

部落バスの実践経過を追ってその様子をお知らせしてみます。

三月十八日(土) 嘉木
校外分団会で部落バスの実施を決定。(賛成十七名反対三名)

四月二日(日) 嘉木
部落父母の会、参加父母二十名中十五名出席、部落バス(一)の教育的意味の説明、協議の結果全面的に賛成。学習機として飯台を用意し虫よけ網をつけることになる。

四月八日(土) 嘉木
部落バスの学習方法について打合せ日時 毎週土曜日六時~八時迄
内容 一回二教科、日直、学習係
清掃当番等を定める。

四月二十二日(土) 嘉木
部落バス学習開始、全員出席。
学習バス(二教科九十分、園社)
生活バス(三十分分団長司会)
休けい時間がほしい
内容を多くしてほしい
むだ話が多かった

四月二十二日(土) 嘉木
時計がほしい、電燈が暗いので増設してほしい。
川部落生徒四名参観にくる。

四月二十八日(金) 嘉木
一年は問題が簡単で時間を余す
二年は態度が大変よかった。
三年はや、雑談が多い
四ヶ字部落生徒三名参観する。
五月六日(土) 嘉木
一年 学習係が先生との連絡がまずく問題がでず復習する
二年 学習態度よく、問題も適當
三年 問題が少なく時間余る。
天野部落生徒六名、鍋淵三名参観
参観者がうるさかった。
五月十三日(土) 嘉木
学習態度全般に良好
父母にお願
一、二年の部屋の電燈が暗いので増設してほしい。
父母がもう少し早めにきて管理にあたってほしい。
団地生徒四名参観する。
五月十五日(月) 楚川、四ヶ字部落生徒放課後自主的に部落バス実施を決定する。
父母に協力を求めたところ農繁期後にもつとの連絡が部長よりある。
五月十八日(木) 嘉木
団地生徒部落バス実施を自主的に決定、父母によびかける。
鍋淵生徒、部落バスについて具体的な学習方法について協議する。
その内容 略
五月二十日(土) 嘉木
きちんと学習ができるようになる。
学習係に対する要望
解答を用意してほしい。
当番は十分前にきて用意されたい。

五月二十三日(火) 楚川
団地の父母代表、部落バス対策のため来校し打合せをする。
五月二十七日(土) 嘉木
個人学習とバスのけじめがない。
三年の当番なまける。
父母の感想
最近公民館がきれいになった。
五月二十九日(月) 楚川
八幡班長宅で父母の会
二十三名中十三名出席、生徒代表三名も出席。
部落バスについて説明
実施について父母の当番、運営委員等を定める。
五月三十日(火) 鍋淵
部落公民館で父母の会
十九名中十四名出席
部落バスについて説明
実施方策を協議、運営委員を決定
六月二日(金) 四ヶ字
研修所で父母の会
二十三名中九名出席
部落バスについて説明の後、協議したが出席者が少ないため、後で全員の意見を集約して決定することになる。運営は評議員が当る。

六月三日(土) 嘉木
三年生のリーダーの注意がよい。
学習係の自作問題による学習がみられるようになった。
楚川部落の父母参観
六月七日(水) 楚川
委員会、父母七名参加
電燈、時計とりつけられる。
一限雑談多し、二限はリーダーの注意できちんとできる。

六月十日(土) 鍋淵、嘉木
参観者が多かった。
学習態度は良好である。
学習係の事前準備がよくなかった。
手洗いの電燈、防虫網がほしい。
嘉木
防虫網をとりつける。
個人学習とバスの区別がみだれている。
六月十一日(日) 団地
鍾木会館で八時から父母の会
二十八名中十一名出席
協議の結果、やるかどうかは父母の態度にあるので、正副班長が欠席者の意見を聞いて決定する。
六月十四日(水) 楚川
三年生にふざけたものがいて学習をみだす。
少数だがむだ話が目立つ。
全般的によく学習している。
感心したとの父母感想あり。
六月十七日(土) 嘉木、鍋淵
参観者がいるので注意しよう。
学習係の自作問題はよいがコピーか印刷にしてほしい。
鍋淵
一、二年の課題が難しかった。
遅刻者がいるが注意しよう。
休けい時間がほしい。
まじめに学習できた。
六月二十日(火) 四ヶ字
遅刻者が多く定時に始められず。

要望
虫よけ網がほしい
父母から
しつかりやってほしい。
規律がよくない。
おもしろいだけでは困る。
あとしまつはきちんとやること。
自転車、はきものを整理する。
六月十日(土) 鍋淵、嘉木
参観者が多かった。
学習態度は良好である。
学習係の事前準備がよくなかった。
手洗いの電燈、防虫網がほしい。
嘉木
防虫網をとりつける。
個人学習とバスの区別がみだれている。
六月十一日(日) 団地
鍾木会館で八時から父母の会
二十八名中十一名出席
協議の結果、やるかどうかは父母の態度にあるので、正副班長が欠席者の意見を聞いて決定する。
六月十四日(水) 楚川
三年生にふざけたものがいて学習をみだす。
少数だがむだ話が目立つ。
全般的によく学習している。
感心したとの父母感想あり。
六月十七日(土) 嘉木、鍋淵
参観者がいるので注意しよう。
学習係の自作問題はよいがコピーか印刷にしてほしい。
鍋淵
一、二年の課題が難しかった。
遅刻者がいるが注意しよう。
休けい時間がほしい。
まじめに学習できた。
六月二十日(火) 四ヶ字
遅刻者が多く定時に始められず。

要望
虫よけ網がほしい
父母から
しつかりやってほしい。
規律がよくない。
おもしろいだけでは困る。
あとしまつはきちんとやること。
自転車、はきものを整理する。
六月十日(土) 鍋淵、嘉木
参観者が多かった。
学習態度は良好である。
学習係の事前準備がよくなかった。
手洗いの電燈、防虫網がほしい。
嘉木
防虫網をとりつける。
個人学習とバスの区別がみだれている。
六月十一日(日) 団地
鍾木会館で八時から父母の会
二十八名中十一名出席
協議の結果、やるかどうかは父母の態度にあるので、正副班長が欠席者の意見を聞いて決定する。
六月十四日(水) 楚川
三年生にふざけたものがいて学習をみだす。
少数だがむだ話が目立つ。
全般的によく学習している。
感心したとの父母感想あり。
六月十七日(土) 嘉木、鍋淵
参観者がいるので注意しよう。
学習係の自作問題はよいがコピーか印刷にしてほしい。
鍋淵
一、二年の課題が難しかった。
遅刻者がいるが注意しよう。
休けい時間がほしい。
まじめに学習できた。
六月二十日(火) 四ヶ字
遅刻者が多く定時に始められず。

要望
虫よけ網がほしい
父母から
しつかりやってほしい。
規律がよくない。
おもしろいだけでは困る。
あとしまつはきちんとやること。
自転車、はきものを整理する。
六月十日(土) 鍋淵、嘉木
参観者が多かった。
学習態度は良好である。
学習係の事前準備がよくなかった。
手洗いの電燈、防虫網がほしい。
嘉木
防虫網をとりつける。
個人学習とバスの区別がみだれている。
六月十一日(日) 団地
鍾木会館で八時から父母の会
二十八名中十一名出席
協議の結果、やるかどうかは父母の態度にあるので、正副班長が欠席者の意見を聞いて決定する。
六月十四日(水) 楚川
三年生にふざけたものがいて学習をみだす。
少数だがむだ話が目立つ。
全般的によく学習している。
感心したとの父母感想あり。
六月十七日(土) 嘉木、鍋淵
参観者がいるので注意しよう。
学習係の自作問題はよいがコピーか印刷にしてほしい。
鍋淵
一、二年の課題が難しかった。
遅刻者がいるが注意しよう。
休けい時間がほしい。
まじめに学習できた。
六月二十日(火) 四ヶ字
遅刻者が多く定時に始められず。

要望
虫よけ網がほしい
父母から
しつかりやってほしい。
規律がよくない。
おもしろいだけでは困る。
あとしまつはきちんとやること。
自転車、はきものを整理する。
六月十日(土) 鍋淵、嘉木
参観者が多かった。
学習態度は良好である。
学習係の事前準備がよくなかった。
手洗いの電燈、防虫網がほしい。
嘉木
防虫網をとりつける。
個人学習とバスの区別がみだれている。
六月十一日(日) 団地
鍾木会館で八時から父母の会
二十八名中十一名出席
協議の結果、やるかどうかは父母の態度にあるので、正副班長が欠席者の意見を聞いて決定する。
六月十四日(水) 楚川
三年生にふざけたものがいて学習をみだす。
少数だがむだ話が目立つ。
全般的によく学習している。
感心したとの父母感想あり。
六月十七日(土) 嘉木、鍋淵
参観者がいるので注意しよう。
学習係の自作問題はよいがコピーか印刷にしてほしい。
鍋淵
一、二年の課題が難しかった。
遅刻者がいるが注意しよう。
休けい時間がほしい。
まじめに学習できた。
六月二十日(火) 四ヶ字
遅刻者が多く定時に始められず。

要望
虫よけ網がほしい
父母から
しつかりやってほしい。
規律がよくない。
おもしろいだけでは困る。
あとしまつはきちんとやること。
自転車、はきものを整理する。
六月十日(土) 鍋淵、嘉木
参観者が多かった。
学習態度は良好である。
学習係の事前準備がよくなかった。
手洗いの電燈、防虫網がほしい。
嘉木
防虫網をとりつける。
個人学習とバスの区別がみだれている。
六月十一日(日) 団地
鍾木会館で八時から父母の会
二十八名中十一名出席
協議の結果、やるかどうかは父母の態度にあるので、正副班長が欠席者の意見を聞いて決定する。
六月十四日(水) 楚川
三年生にふざけたものがいて学習をみだす。
少数だがむだ話が目立つ。
全般的によく学習している。
感心したとの父母感想あり。
六月十七日(土) 嘉木、鍋淵
参観者がいるので注意しよう。
学習係の自作問題はよいがコピーか印刷にしてほしい。
鍋淵
一、二年の課題が難しかった。
遅刻者がいるが注意しよう。
休けい時間がほしい。
まじめに学習できた。
六月二十日(火) 四ヶ字
遅刻者が多く定時に始められず。

要望
虫よけ網がほしい
父母から
しつかりやってほしい。
規律がよくない。
おもしろいだけでは困る。
あとしまつはきちんとやること。
自転車、はきものを整理する。
六月十日(土) 鍋淵、嘉木
参観者が多かった。
学習態度は良好である。
学習係の事前準備がよくなかった。
手洗いの電燈、防虫網がほしい。
嘉木
防虫網をとりつける。
個人学習とバスの区別がみだれている。
六月十一日(日) 団地
鍾木会館で八時から父母の会
二十八名中十一名出席
協議の結果、やるかどうかは父母の態度にあるので、正副班長が欠席者の意見を聞いて決定する。
六月十四日(水) 楚川
三年生にふざけたものがいて学習をみだす。
少数だがむだ話が目立つ。
全般的によく学習している。
感心したとの父母感想あり。
六月十七日(土) 嘉木、鍋淵
参観者がいるので注意しよう。
学習係の自作問題はよいがコピーか印刷にしてほしい。
鍋淵
一、二年の課題が難しかった。
遅刻者がいるが注意しよう。
休けい時間がほしい。
まじめに学習できた。
六月二十日(火) 四ヶ字
遅刻者が多く定時に始められず。

要望
虫よけ網がほしい
父母から
しつかりやってほしい。
規律がよくない。
おもしろいだけでは困る。
あとしまつはきちんとやること。
自転車、はきものを整理する。
六月十日(土) 鍋淵、嘉木
参観者が多かった。
学習態度は良好である。
学習係の事前準備がよくなかった。
手洗いの電燈、防虫網がほしい。
嘉木
防虫網をとりつける。
個人学習とバスの区別がみだれている。
六月十一日(日) 団地
鍾木会館で八時から父母の会
二十八名中十一名出席
協議の結果、やるかどうかは父母の態度にあるので、正副班長が欠席者の意見を聞いて決定する。
六月十四日(水) 楚川
三年生にふざけたものがいて学習をみだす。
少数だがむだ話が目立つ。
全般的によく学習している。
感心したとの父母感想あり。
六月十七日(土) 嘉木、鍋淵
参観者がいるので注意しよう。
学習係の自作問題はよいがコピーか印刷にしてほしい。
鍋淵
一、二年の課題が難しかった。
遅刻者がいるが注意しよう。
休けい時間がほしい。
まじめに学習できた。
六月二十日(火) 四ヶ字
遅刻者が多く定時に始められず。

要望
虫よけ網がほしい
父母から
しつかりやってほしい。
規律がよくない。
おもしろいだけでは困る。
あとしまつはきちんとやること。
自転車、はきものを整理する。
六月十日(土) 鍋淵、嘉木
参観者が多かった。
学習態度は良好である。
学習係の事前準備がよくなかった。
手洗いの電燈、防虫網がほしい。
嘉木
防虫網をとりつける。
個人学習とバスの区別がみだれている。
六月十一日(日) 団地
鍾木会館で八時から父母の会
二十八名中十一名出席
協議の結果、やるかどうかは父母の態度にあるので、正副班長が欠席者の意見を聞いて決定する。
六月十四日(水) 楚川
三年生にふざけたものがいて学習をみだす。
少数だがむだ話が目立つ。
全般的によく学習している。
感心したとの父母感想あり。
六月十七日(土) 嘉木、鍋淵
参観者がいるので注意しよう。
学習係の自作問題はよいがコピーか印刷にしてほしい。
鍋淵
一、二年の課題が難しかった。
遅刻者がいるが注意しよう。
休けい時間がほしい。
まじめに学習できた。
六月二十日(火) 四ヶ字
遅刻者が多く定時に始められず。

・学習係の連絡不十分で課題がなかった(三年生)
 ・一、三年生の態度がよく二年やたらける。

・要諦
 ・防虫網、蚊取線香がほしい。
 ・始業時間を早めてはどうか。
 ・父母―よく勉強して欲しい。い。よく頑張っている。
 ・分隊長―バスに対する構えと協力について呼びかける。

六月二十一日(水) 鶴川
 ・一年 ひだ話し多い、声が大い
 学習係の連絡不十分。
 ・二年 課題が簡単に済む。
 学習係の連絡不十分で、課題がない、テキストの勉強

・父母から―玄間の下足について
 きちんとするよう注意あり。
 六月二十四日(土) 嘉木、鍋沼

・一年 少しだらけで雑談多し
 学習係の自作問題で、まじめに学習している。
 ・二年 大体よくやっている。
 ・三年 大抵よくやっている。
 ・父母―まじめにできるよになつてきたとの感想あり。

○鍋沼
 ・全員が五教科まよめのバスである。
 ・雑談が目立つた。まじめにとりくんでいる生徒も多い。
 ・父母から
 ・自転車の整備をきちんとする。
 ・発表は速速するな。
 ・ひだ口が目立つ、他は良好。

六月二十七日(火) 四ヶ字
 ・時間配分(個人学習とバス)がとれない。
 ・遅刻者が目立つ。
 ・二十分の個人学習が不足ではないか。また、学習係がしっかりする必要あるとの注意がある。
 ・防虫網とりつけられる。
 以上のことが、大体的ようすです。

このことから考えると、部落バスは、第一に、部落の生徒が、みんな「やる気」があるかどうか。第二に、父母が協力してくれる体制がでるかどうかが大変な条件です。第三にみなさんが、わざわざ部落公民館にきて学習するのはなぜかというのをはつきり自覚していることとです。つまり、公民館にきてバスをするには、それだけの良さがあるはずで、家―一人では得られない学習方法、勉強能率、理解するはやすさ、仲間、場所等多くの良さがあります。

このことが、わからないでは、長続きしません。部落バスをやっている部落も、まだやっていない部落もこのことだけは十分考えて話し合ってください。先生方や父母達は部落バスに、多くの良さがあることを認め、協力を惜しまないのです。できるだけ全部落が、参加して、お互いが教え合い助け合つて勉強が、より一層向上するよう期待します。

鍋沼 石垣 豊

我ら鍋沼部落の中学生は、6月10日、我が部落の公民館で第一回目の部落バスと称するものを実施した。開始時間は残念ながら、予定の十九時ではなく、十九時半であった。ほ

くはこの部落の分隊長として、この第一回目には大いに期待をかけていたのだ。「何事も最初が一番大事である」とよく言われているんだが、これではその先どうなるかあてになつたものではない。何しろひどい奴は自分も遅れたのだから……。

しかし、みんな実に真面目に取り組んでいた。先の不安もふつとび、このフアイトでいけば遅刻ぐらいすぐに直して、もつともつといいものになっていくだろうとほくは思つた。この部落の相当であり、今日出席された松本先生、及び、父母達も、遅刻に対しては深い顔をしておられたが、バスの内容に対してはとも満足そうであった。

それから、6月17日には第二回目、6月24日には第三回目の部落バスを実施したが、その二回とも遅刻が大いに目立つた。その両日のバス開始時間は、予定より二十分遅れの七時二十分だった。

はくらの部落バスの長所はいろいろあれど、遅刻という大きな欠点があることを忘れてはいけない。はくら鍋沼部落の生徒は、今それを改善する為に努力をしている……。

七月二十九日 第七回

感想

- (1) 生徒
 - 。無駄話が多い。
- (2) 父母

。おしゃべりがいっぱいあったが、熱心なのが少かった。
 。年をとってからでは、何もできない。みんなのよりに若いうちにしっかりやっておきたい。自分が若かった頃がなつかしくなった。
 (三十年前の青木さんの話をうかがった)

八月五日 第八回

1. 生活バス

。「夏休み帳」だけでなく、学習係は、課題を作ってほしい。

2. 感想

- (1) 生徒
 - 。無駄話が多い。
- (2) 父母

。まじめで、一生懸命だった。
 。さわがしかった。来週からしっかりやってほしい。

八月十二日 第九回

1. 生活バス

- (1) 欠席者が多かった。

—— 当人に理由をきくことにする。

(2) 休憩時間をふやしてほしい。

—— 次週から、前後二度の学習時間の間に設けられている五分間休憩を十分間にふやすことにする。

この頃、PTA部落班長とあられる西脇威衣が突如天野地内に転居された。

八月十九日 第十回

1. 生活バス

。欠席者について、

—— 欠席する場合は、石垣君が友人に連絡すること

2. 感想

。父母

。はきものをそろえること。

八月二十六日 第十一回

1. 生活バス

。欠席者が多い。(欠席者六名)

2. 感想

。父母

。もっと全員が出席するよりに、むだ口が多すぎる。

九月二日 第十二回

1. 生活バス

。学習内容を変更したい。

—— 三年は次のような方法で学習することにする。(これ以後当分の)

、一年——学習係に任せて、主に学習係の作った問題をやる。

、三年——五教科のテキストを一回につき、二教科ずつやる。

2. 感想

(1) 生徒

。欠席がなくてよかった。

。遅刻がなくてよかった。

(2) 父母

。今日は、出席もよかったし、遅刻も一人もいなかった。この調子で一生懸命やってほしい。

九月九日 第十三回

。教生の番場さんが参観にこられる。

。感想

(1) 父母

。もう少し真剣にやったらいい。

。遅刻者が少しあったのは悪い。

(2) 番場さん

。私たちの中学生時代には考えられなかったことだ。特に男女の仲がよいにおどろく。

。今後とも大いにがんばってほしいと思つた。

九月十六日 第十四回

1. 生活バス

。遅刻、欠席が多い。

2. 感想(父母)

。もっと自主的にやるようにしてほしい。

。今後一生懸命やってほしい。

九月二十三日 第十五回

(一年生の課題づくりと学習が目に見えてよくなつてきている。)

。父母の感想

。学習は熱心にやっていた。

。みんな楽しそうに話し合っていた。

九月三十日 第十六回

新報日報、石倉さん、校長先生、教頭先生、舟越先生、斎藤先生が参観に来られた。

1. 生活バス

(1) 一生懸命学習した。

(2) 公民館の内外をめぐりしてはどうか。

—— 来週、部落バス終了後実施する。

カマを忘れたい小刀に。

2. 感想

(1) 生徒

。いつもよりよかった。

(2) 父母

。休み時間は、もっと手足をのばして体操をしたらどうか。

(3) 参観者、

。校長先生——この前見た時より、ひじょうに
進歩した。

。石倉さん——私などは想像もできなかつたこ
とを君たちは実際にやっている。みんな、と
ても熱心ですばらしい。

十月六日 第十七回

。曾野木中学校、バス研究大会のため、午前十一時
より開始。市内の教職員三十名程の参観者があつた。
バス終了後、先回の約束通り、公民館内外の清掃を
実施。

1. 生活バス、

。寒くなってきたので、暖房のことを考えてほ
しい。

2. 感想

(1) 生徒・父母、

。まだ話がなくてよかった。
。一生懸命やってほしい。

十月十四日 第十八回

1. 生活バス、

。遅刻があつたのが残念だ。

2. 感想

(1) 父母

。もっと静かに学習に取り組んでほしい。

十月三十一日 第十九回

1. 生活バス

(1) 一年

。時間配分がよくなかつた。
。まとめることができなかつた。

(2) 二年

。むだ話が多い。
。声が大きい。

(3) 三年

。遅刻者がいた。

2. 感想

(1) 生徒

。欠席がなかつたことはよかった。

(2) 父母

。下駄箱がきちんと整理されていてよい。
。二年生のむだ話が多いようだ。

十月二十八日 第二十回

八時過ぎ、嘉木部落の生徒(白川真由美、野上久
江、小菅直文、屋田正吉、高橋良夫)が参観に来た。
新しい石油ストーブが入った。

1. 生活バス

。遅刻、欠席生徒がある。
。一、二年生のむだ話が多い。

2. 感想

(1) 参観者

。静かに勉強していてよい。

十一月四日 第二十一回

1. 生活バス

- 。むだ話が多い。
- 。まどまりがなく声大きい。

2. 感想(父母)

。時間の区切りをば、きりさせる必要がある。

十一月十一日 第二十二回

一日レクリエーションを実施する。

。内容

- ア、ハンカチゲーム
- イ、ダルマさんゲーム
- ウ、チャンピオンゲーム
- エ、スキヤキゲーム
- オ、ハチマキ回し
- カ、集団ジャンケン(キツネ、庄屋、狩人)
- キ、ジャンケンリレー
- ク、血圧ゲーム
- ケ、障害物

1. 生活バス

。ふた月一回くらい、レクリエーションをやることにしたのだ。

2. 感想

(1)、生徒

。みんな楽しくやっ、て、おもしろかった。

(2)、父母

。大へんおもしろそうにやっ、ていたので、時々は、レクをやっ、たらいいのではないか。

十一月十八日 第二十三回

1. 生活バス

。野球部の試合もあつて、欠席者が多かつた。

2. 感想(父母)

。とてもよい。発展してきていると思ふ。たに問題は、先生がいない時、とりなるかということだ。

。慣れてしまったという感じがある。

十一月二十五日 第二十四回

特記事項なし

十二月二日 第二十五回

1. 生活バス

- 。一年生にむだ話が多かつた。
- 。二、三年生ははじめにやっ、た。

十二月九日 第二十六回

特記事項なし

十二月十六日 第二十七回

1. 生活バス

。欠席者がいることが問題である。

2. 感想(父母)

。一生懸命やっ、ている。これからむがんばつてほしい。

十二月二十三日 第二十八回

1. 生活バス

。欠席者が多いことが問題である。

その対策として、

電話をかける。

、学校で注意する。

理由をきく

2. 感想へ父母

。一生懸命やってほしい。

。二年生がむっとうじめにやっばりがよい。

。欠席者がいることは残念だ。

この頃までのことを、舟越先生は、十二月二十二日発行の生徒会新聞、「信あ川」に次のように書いておられる。

バス学習の研究会を終わって

舟越先生

去る十月六日、バス学習の研究会を開き「曾野木の子どもたちが、どんな学習をしているか」を見ていた。当日は、公開授業・部落バス参観・研究協議会、講演とPTAの皆さんの協力を得て、約百五十名の参加で充実したものにすることができました。

本校は、バス学習をはじめから三年になる。この間に色々な悩みや試行錯誤があったけれどもお互いの研さんと協力で、思い切って正面からとりにくく一つ一つ問題を解きほぐりにして対処してきたように思う。当初は、「バス学習」というと、父母の中には、「バスに乗ってどこへ行くのですか」というエピソードもあった。また、「バス学習は子どもたちをモルモットにして実験研究をするのですか」という質問もあつた。生徒も、「友だちに教えるだけで損だ」「話し合ふのがめんどうだ」など、なかなかそのよさをつかんでくれなかった。先生方も、今までの授業方法では教えられなくなってきた。そこで、次のような構えで、子どもたちと取り組むことにした。

。全校体制の中で、バス学習をすすめる。

。つねに「曾野木の子どもをどうするか」ということを問題にしてその解決方法を考えていく。

。自主性を育てるためには、教える姿勢から育てる姿勢が必要で、生徒相互の作用を活発にする。

。学校・地域・家庭の有機的な連携をはかり、全人教育をめざす。バス学習は、何か特殊な教育ではなくて、現代の問題点を明確にとらえて、子どもたちが将来に生きていく上に大切な能力を身につけ、社会人として積極的な態度で生きて行ける人間形成をめざしているのです。

名古屋大学の塩田先生も講演の中で「子どもが自己を実現していくには、自分の生活を統合することである。だから、子どもが、ある教科に非常に熱心だが他の教科にはそれほどないということがある。子どもは、何もかも、すぐさまでやるものではないのであるから、好きな教科に興味や関心ができたら、それを中心に、そのほかの教科も統合されてくるのです。」つまり、ひとりひとりの子どもが、自己を実現していく(自己実現)には、生活の統合をさせることといっています。

曾野木の子どもの実態から「自主的に学習する生徒」を育てようとしてバス学習をすすめてきた学校の構えを十分ご理解いただいて、父母の方々からも協力をお願いします。研究会では、市内の各先生から特色と示唆をいただき有難かったです。特に、明るく活発で、よく学習に参加していた、父母の協力がすばらしかった、部落バスは、うらやましい地域づくりの姿勢であった、先生方の協力一致した姿勢であった、教育の本質を適確にとらえ、勇気をもつ

子どもの愛護にとりくんでいる等に高く評価されました。ほんとうに恵まれた地域で、取り組むことができたからこそ、こころで進められたものと思っております。

現今の社会は、各方面から多くの問題点が指摘されています。特に、人間関係の問題、家庭の個別化、地域社会の連帯感喪失、情報化時代に押し流された主体性のない人間など、すぐにでも何んとかしなければならぬことでありながら、どうにもならなくて困っている現実です。

そのために、教育においても知育中心では、多様化した現代社会に適応する人間の育成にはならない。つまり、知識の量よりも、批判し、選り、判断する能力が重要になってくるのです。子どもが、自主的にことごとくやったり、創造性といふことが身につけているのでなければならぬのです。さらに、子どもをとりまく環境である学校、家庭、地域の有機的な連携の中で、社会集団として育成することができれば、本當の教育の姿であると考えます。

度、地域社会の連帯感、郷土愛等を育成することも含まれています。さらに、父母自身が我が子以外の子どもと比較することができ、この視察を通して子どもをよりよく理解すること、親子の人間関係を深めていただき、生徒と共に成長してもらおうというねらいもついているのです。

だから、子どもたちが、寒いやりにやりにくいか、勉強にムダ話が多いからとか、テレビを見たいから等の理由で休んだり、中止を要求するようなどがあったりしたら、まず、父母の皆さんから、この部落バスの真のねらいを十分ご理解いただいた上で、毅然たる態度で子どもを納得させていきたい。きびしさというものが人生には大切であること、努力して自分たちで改善すること、態度をしっかり持っていたきたい。最近、経済的に恵まれてきたためかどうも甘やかされがちなような気がしてなりません。部落バスを、今後ますます発展させるかどうかは、父母の皆さんの態度いかんによって決まるといえます。お互いに手をとりあって頑張り続けることや教師になりたいものです。そういうことが真の教育の姿であるような気がいたします。

一月六日 第二十九回

お正月のことももあり、楽しみ会を実施した。

内容

- ア、坊主めくり
- イ、百人一首
- ウ、トランプ
- エ、ギター演奏と歌

百人一首では、二年生がすばらしい能力をこぼした。ギター演奏では、菅津隆君がその技能をみんなに披露し、石垣君はトランプ遊びの研究成果を発表した。

1. 生活バス

。個人的なゲームであるため、まとまりに少し問題がある。今後は、もっと工夫すべきだ。

2. 感想(父母)

。百人一首などは、自分たちの若い頃より能力が劣るのではないかと思ふ。

一月十三日 第三十回

1. 生活バス

(1) 欠席者について

。欠席する人が決まってきたよ。なにかみんながそろえるよりに、欠席者に呼びかけよう。

(2) 一年生の課題作りは軌道にのってきているよ

うてとてもよい。二年生もがんばってほしい。

一月二十日 第三十一回

1. 生活バス

- (1) 今日(1)は二年生もきゅんとして課題を作り、すばらしく、まじめに取り組んでいてよかった。
- (2) 三年生は、実カテストの疑問点を話し合ったが出席者全員が真剣に取り組み、意義があったと思ふ。

一月二十七日 第三十二回

1. 生活バス

。ちつとばかりむだ話があった。

2. 感想(父母)

。なごやかな雰囲気であった。しかし、むだ話が反になる。

二月三日 第三十三回

。感想(父母)

。一、二年生は楽しそりにやっていた。三年生は、受験をひかえているためだろうが一生懸命な様子が見える。がんばってもらいたい。

二月十日 第三十四回

。生活バス

。一、二年生がうるさかった。他の人の学習のじゃまにもなるので、静かに学習に取り組んでほしい。

、欠席者が完全に固定してしまっている。

二年生の発表で、部落バス終了後三年生が帰ったあと、二年生が残って「三年生を送る会」について話し合った。

1. 期日：——三年生の意向を聞いて決定する。

2. 内容

ア、レク、——公民館の稲葉主事にお願ひしては

という教師の意見に対し、自分たちで計画し、実践したいのだという生徒の意見が出され、全員がそれに賛成した。

イ、お菓子——一人百円とする。三年生の分はと

こから出るから心配するなという教師の意見に対し、生徒たちは「私たちが出したのだから」といふことで、一、二年生が一人百五十円ずつ出し合ふことに決定。

ウ、会場装飾、——各自の家にあるクリスマスツ

リーの装飾を持ち寄る。

3. 仕事分担

ア、司会 白倉智光

イ、挨拶 斎藤

ウ、レク係

エ、間食係

オ、装飾係

二月十七日、第三十五回

特記事項なし、

二月二十四日は、猛吹雪のためとりやめた。
三月三日は、部落の人たちが公民館を利用したため部落バスは中止した。

三月五日、三年生の意向で、「三年生を送る会」を三月十日に実施することになった。そのため、部落の一年生は放課後学校の図書室に集まり、各係ごとに話し合いをおこない、準備にとりかかった。

三月九日、父兄代表より、「父母の反省会を三月十一日の日曜日に実施したい。」という申し入れがあったので、できることなら、十日の日、「三年生を送る会」終了と同時にしてほしいと申し入れ、ご了承を得た。

三月十日、第三十六回

三年生を送る会

部落の全父母が参加して行なわれた。会場は会場へ入ると、一、二年生の手で、きれいに装飾され、準備がととのえられていた。

。内容

- 1、三年生入場
- 2、開会のことば
- 3、二年生代表挨拶
- 4、卒業生代表挨拶
- 5、レク
- ア、歌「鍋淵部落バスの歌」
- イ、スキヤキゲーム
- ウ、めくら剣法
- エ、貴殿の頭ははげ頭
- オ、ハチマキ回し
- カ、ケツ庄ゲーム
- キ、好きですかきらいですか、
- ク、三年生のおかえし
- ケ、フォークダンス

その後、茶話会に移り、自由に話し合い計画があったが、父兄の反省会が合流することになったため、予定を変更し、反省会の会場準備が行なわれた。血盛りの料理とすが、父母、生徒全員分用意され、全員で会食が始まった。
生徒、父兄の余興がとびだし、なごやかな雰囲気の中で、全員が時間のたつのを忘れていた。
最後に、みんなが「蠟の光」を歌い、会場いっぱいの拍手におくられて、三年生は静かに去って行った。

この日の感激を、卒業生であり、分団長として一年間この鍋沼部落バスをリードしてきた石垣豊君は自クラスのバスノートに次のように書き記している。

SUNDAY MARCH ELEVEN

My name is Yutaka Sakigaki

ヤッター！ 俺は勝った！ 俺は成功したんだ！
負け犬なんかじゃねえぞ。馬鹿は勝つ！ ドアホ
ウは勝てる！

同じ馬鹿でも、自分で自分を偉いと思つて満足しているより馬鹿じゃない。そんな馬鹿は必ず負ける。ともかく、今の俺は勝利者なのだ。

口先だけが達者な奴は負ける。自分は何でもできるんだという自負心を持つている奴は俺達の世代じゃお通用しない。なまじきな野郎は進歩しない。人に頭を下げることを知らぬえ野郎は人の世は渡れない。

何をやるにせよ、理屈抜きでやれるというところが大切なんだ。

三月九日の卒業生を送る会のとくも、みんなは、あんなにアホくさいよりなことをよくあそびまじやうだと思つた。俺を中心とする演出係の頭のおきが悪かつたから、演出はいいとはいえなかつた。しかし、三田のみんなは、その馬鹿らしいのを精一杯やうて、そしてやりとげた。馬鹿になるのはむづかしい。しかし、馬鹿になれる奴は、必ず何かをつかめる奴だ。

昨日、三月十日、俺たち鍋沼部落の三年生は、同部落の一、二年生の計画による「三年生を送る会」に出陣した。父母が先生への感謝の意を表したいといふことごと、豪華な夕食も出たりした。

まず、最初にゲームをやり、それから、食、たり歌、たり、踊、たりのドンチャン騒ぎだった。すごく楽しい時間だった。その中で、特に気づいた点といえは、一、二年生の女子がよく歌を歌、たといふことだ。父母も、よく歌い、また、踊、たけれど……

それから、ちよつと小耳にはさんだことであるが、この「三年生を送る会」の内容を討議している際、菓子を一人につき百円ずつ配り、三年生の分は？、といふことになつた時、一、二年生は「私たちが出してあげたい。」と、言つていたのだぞうだ。結局父母の計画と一緒に、まして、それはなくなつてしまつたよりだが、俺は一、二年生の気持を実にうれしく思つた。俺をはじめとして、いつもあんなにす、こけていた俺たちに、なぜあんな心づかいをしてくれたのであろうか。我々の部落バスに対する真意をわが、てくれたのであろうか。

別にとりえのない俺たちに、彼らはこれだけのことをしてくれた。精一杯馬鹿になろうとした俺たちに……。理屈抜きで何かを求めようとしていた俺たちに……。今の俺は、喜びと充実感で一杯である。

この経験を人生に生かし、俺たちは今以上に成長しなけりばならない。鍋沼部落の一、二年生、俺たちの真意を忘れるなよ！ 俺たちもおまえらに

負けないよりに頑張るからな!

最後に、

青年時代に理屈などは必要ない。青年時代には、思いきって向かえやらぬばならぬ。それがたとえ人に笑われようが、さげすまれようが、自分が正しいと思つたことは思いきってやってみろ! 君らが青年時代に若い力をぶつけてや、たことは、いつまでも胸の中に残るだろう。

君らに捧げることば

Boys, Let's Try!

(先生、ごきたら、これを松本先生に、そして、鍋沼部落のみんなにまわしてや、てください。)

部落バスと子ども会

曾野木中学校PTA 嘉木部落班長 山田 登

曾野木中学校バス学習実施については、今年四月の新学期より始めて九ヶ月になろうとしています。地域バス学習は、全国に広島県姫路市高丘中学校と、曾野木中学校の二ヶ所だけと聞いて居ります。実施とともに、各方面より注目され、皆さん御承知のように、十月初め新潟日報に掲載されました。

十月六日、新潟市内各中学校より多数参加され、本校におけるバス学習(小集団)研究発表会が行なわれました。又実施部落でのバス学習の参観もあり、大変好評を得たのであります。十一月二十七日、新潟市PTA研究大会において、曾野木地区として発表し対外的に大きく認識されました。

各地区でも週一回の実施日には、休む生徒もほとんどなく、学習に語り合いに喜んで参加して居ります。地域バス学習のねらいは、家庭教育、学校教育、社会教育の統合の場として、地域バスを発展させる。個人学習と集団学習の統合をはかる。

- 。自主的な活動と連帯感を養ない、健全な集団活動をとおして、御土愛を持つ子どもに成長させる。
- 。父母同志の相互理解と子どもたちを、客観的に理解することができ、子どもと共に父母も成長する。
- 。生徒、父母、教師の人間関係がより深く培われてくる。
- 。生徒の学習習慣が身につく、意欲的な生活態度が養われる。
- 。以上のような地域バス学習を進めて行くに当り、地域の方々の多大なご協力を得、大変感謝して居ります。しかしながら、当面解決しなければならぬ地域バス学習実施上の問題点もいくつか指摘されて居ります。

生徒の交通安全、教師の勤務時間父母の協力態度、経費の問題、末組地域地域の啓もう、小学校や社会教育団体との提携等の問題であります。今後レクリエーション活動を近き将来小学校五・六年生も一緒に入れて子供会の発展に進めたいと思っております。

成する必要がさげばれて居りますが、今の子どもたちが、地域バスでの活動の中から自主的な姿勢で、新しい地域づくりに対処する社会人に成長するのであることを信じて居ります。

われらの部落バズ

卒業生のことは

鍋湯部落バズ万歳

旧分団長 石垣 豊

ぼくは嘉木の人たちに先を越されたことに対して、ひげめを感じながらも、鍋湯部落バズを開始させることに成功した。ぼくが「鍋湯部落バズ」を提唱したとき、およそ半数の人たちがこれに反対した。理由は、テレビが見られなくなるからということだった。今になって考えてみると、あの頃みんなの考え方は全く程度が低かったと思う。

そして六月十日に鍋湯部落バズが始まった。初めの方ち、みんなは、この新しい試みに体ごとぶつかって、その正体をあばかんと努力した。しかし、幾月かたつとその謎の正体をあばき、かつ、自分のものにしないうちに挫折した者もあった。たまたま、やる気がせず、欠席するといふ程度なら望みはある。しかし、毎日毎日必ず来ないなどという人には、ぼくもあきれたね。彼らは自分自身に惨敗しただけでなく、鍋湯部落バズ

をよりよいものに育成していきろとするみんなを裏切ったことになるのである。そんな中で、ぼくは精一杯頑張った。みんなの部落バズに対する誠の心を壊さないために……。毎日、土曜日になると、部落バズ開始時間の五分前には、鍋湯公民館の錠を開け、中の照明にスイッチオン。生活バズの時など、口べたなぼくは、いつもずっけていた。が、常にぼくはみんなに真剣な態度で接した。「部落バズ」、あの頃は、ぼくもその謎に包まれたベールの中を見ることはできなかった。

昭和四十八年三月十日、この日の晩のときことは、ぼくの心の奥底にしっかりと刻み込まれている。ぼくは、公民館に入ったとき、みんなの拍手を浴びながら、内部の明るいムードを感じた。きれいな紙テープが部屋の天井のまん中から四方八方に広がっていったし、照明は、心なしかいつもより明るいように感じられた。中にはいつてからのぼくは、いつもと違って容の立場になった。最初は、レクリエーションをやったのだが、これの実行は、二年生が中心になってよくやってくれた。

さて、次は、夕食を兼ねたドンチヤン騒ぎだ。この頃、舟越先生も来られた。食事がある程度済ませると、一・二年生の女子がわけもなく歌を歌い始めた。次に歌のりまい父上様方がなつかしの歌声を、母上様方が佐渡おけさ(踊り)を披露された。そんな和やかな雰囲気浸って、ほくたち三年生及び先生方へ松本&舟越先生もへたな歌を歌いだした。それらの間毎に楽しんで歌っていたのは、一・二年生の女子だった。男子は、ちよつとほずかしそりにへたな歌を歌ってたっけなあ。父母の歌と踊り、一・二年生女子の歌をんかは、誰から指示されるともなく、次から次へと飛び出した。松本先生をはじめとするみんなは、全部が全部にこやかに幸せそりを顔をしていた。ほくは、この劇的なシーンをフィルムに許す限り写しまくった。あの時のほくは、奥に幸せだった。おそらく、父母や先生方も、あれほど感激したことはなかったであろうと思ひ。

ほくは、部落バズの理想像は、この鍋温部落における「三年生を送る会」のゆかりに、「父母と生徒が心も体も一つになつて同じことがやれる」ということでは

ないだろうかと思つた。そして、その理想を達成できなかったという満足感でいっぱいだった。ただ一つ残念でならないのは、途中で挫折した二人が最後の最後まで立ち直れず、このすばらしい会に出席できなかったことである。

鍋温部落バズ万歳。バズ学習万歳。

しかし、ほくは、このすばらしい「父母との対話の場」・「部落の生徒同士の融合の場」を、曾野木中学校の生徒だけに限らず、小学生も、そして、高校生からも大いに活用してもらいたいのである。何ごとも、誠意と真剣を持ってぶつかれば、必ずいつかは成功するのである。

いざ。部落バズの向上を目指して、

Boys, Let's Challenge !!

部落バス

渡辺 みさ子

「部落バス」といっても、私は、出席した教よりも休んだ数の方が多かったようです。三年生としては、とてもはずかしく思っています。だから、そんなに言えないんだけど、バスの短所はすぐむだ話が出ることです。長所は、ひとりの力でやるより多くの力でやれば、みんながわかるようになることです。だから、むだ話をやめれば、もっとすばらしくなるでしょう。これからは、ずっとバスを続けると思っています。みんななど協力し、わからない所は聞き、わかればすぐ教えるようにして、みんなですっかりがんばってくださいます。特に、鍋淵の部落バスはすばらしいと言われるように、

私は部落バスに行かなか。たのめ？、という事なのですが、実は、バスはあまり好きではなかつたからなのさす。みなさんの中に、もし、嫌いだなという人がいたら、すぐ、そんな考えはやめて、みんな楽しく、おもしろい部落バスを作り上げ、これからも続けてください。

それに、三年生は、いろいろと忙しくなると思いますが、三年間のしめくりとして、最後の中学生生活を有意に過ごせるように、一年間バスをしっかりとやれたいと言えりようにがんばってください。

それではみなさん、これからむすつと長く続けられるような部落バスにしてください。もちろん、今も、みなさんは頑張っているでしょうが、それ以上にうまくできたら、先生はいらっしやらなくても、生徒と父母だけですばらしい鍋淵部落バスができることでしょう。

わたしたちの 部落バス

鍋湯部落バス

分団長 齊藤 政私

鍋湯部落バスも十ヶ月を経過しようとしている。

石垣君がいたからこそ鍋湯部落バスは生まれたのだ。一時はいろいろなわさがあった。でも、今はもうそんなりわさなどない。しかし、「三年生を送る会」をやったあの日のこと、あれは世界中に知れてもよかった。なにもいえないよりなすばらしい会、三年生もたいへん喜んでくれた。歌、踊り、ゲーム、ほくたちで計画をたてて実施し、父兄も協力してくれた。来年は、ほくたちもあんなふうに送られるものだ。

だが、何人かの人は、部落バスをやめようと言いだした。その理由を何人かの人は語った。「テレビがおもしろい。やって自分のためにならない。おもしろくない。しなど、いろいろなことが出たのだ。反対者は、みな、過去をふりかえってみて、悪かったからや

めようといっているのである。でも、過去より未来が大切なのだ。十ヶ月間のバスは、それほどうまく行かなかったが、うまく行かなかったからこそ、これからほうましく行くとほくは思う。スポーツにしたって、あの人が負けた、今度こそ勝つという気持ちで新たに練習を始める。部落バスも同じだ。鍋湯部落バスも負けたのだ。今度こそ勝つのだ。テレビがおもしろいなど言っている人は、自分自身にあまえている。もつと自分でやる気を出せ。先生は鍋湯バスに期待をかけている。その期待に応えるのだ。このままやめたら、十ヶ月の努力がむだになるし、先生や先輩が悲しむぞ。

こんなことを言った人もあった。「三年生を送る会の時、来たくなかった。おもしろくなかった。」と。それは、たぶんうそといつものだ。ほくには、意地を張っているように聞こえた。おもしろくなかった人がどうしてあんなに楽しくできたのだ。それに、何人かの人がやる気もなく五時間もすごしたら、あんなにうまくはいかなかったらどう。

これから十ヶ月間、部落バスをやるかやらないかの試験があるけど、これはなんとしても合格。

最後に一言、「意地を張っている人はどうかと思つた。」「楽しくないなんて言っている人は大分そつぎだ。

部落バス

白倉 智光

最初に部落バスを始めた時のねらいは、部落のものがまとまることと、学習上の成果の二つであつた。部落バスをやるには、全員が参加することが大切である。だから、できるだけ行くようにしてきた。しかし、毎週公民館へ行くことがばかしくなつてきた。行つても何もおもしろくない。ただ、勉強を少しして、あとはむだ話をするだけだ。

—23—
たまにやるレクリエーションもあまりおもしろいとは思わない。でも、始めたばかりのときは、新しいことをやっているよりの気がして、なんとなくおもしろいと感あつた。そして、部落バスへ行くといふことが、だんだんいやになつてきた。ことに、来る人の少ない日は、勉強をしなくては、むだ話もできない

で、たいくつでしよつた。だから、部落バスなんかやめればいいと思つていた。九月近くやつてきた部落バスだけど、あまり価値はないと思つている。みんなが、「三年生を送る会」はよかつたと言つているが、むりに歌を歌わされ、おもしろくなかつた。歌いたい人だけ歌えばいい、むりに歌わされておもしろいわけがない。でも、自分たちで計画をたてて実行できたことはよかつたと思つた。「三年生を送る会」をやれたことは、部落の者がまとまることについてはよかつたと思つた。

部落バス

円山 敏明

毎週、土曜日の夕方になると、みんなが集まつて、部落バスをやることになつてゐる。ほくは、このころ

行っていない。どうせ行ったとおもしろくない。また、行っても、必ずたれがいないのである。それに、始まる時間が遅いと、帰りもおそくなる。

いちばんいやなことは、ものすごくもだ話が多いことだ。だから、勉強しているよりも、話をしている方が多いみたいだ。一年の間、休んだ日ばかりのすごく多かった。家でやるよりも、何かへんな気持ちになる。それに、なんとなくやる気が出ない。ぼくは、できたらいきたくない。家でやってわかれないと思う。初めのころはまじめだ、だが、終わりころになると、とてもふまじめになった。だから、ぼくは行きたくない。あまりおもしろくないからだ。最後に、部落バスに対して、ぼくは反対だ。

部落バスについての

私の意見

斎藤 とも子

私は、鍋淵部落バスを私たちが三年生になっても卒業してもできるならこのまま続けてい、てもらいたいと思う。

そりゃあ部落バスには欠点がある。誰でも考えていると思うが、一番大きな欠点は、「むだ話」である。学校のバス班でもそりだ。大勢の人が集まると、どうしても、むだロヤむだ話が多くなってしまう。いや、最初のうちは、みんなが真剣に学習をやっているのだが、その中で一人で学習に関係ない話を始めると、他の人もつられて話をしてしまう。そんなバス班での欠点がそのまず、今の鍋淵部落バスに出ているのではないだろうか。

しかし、こんな大きな欠点のある部落バスでも、それをなくしてしまつほどのすばらしくよい点がある。今まで、部落バスでレクリエーションや三年生を送る会をやってきましたが、それは一人でできることですか？ 一人であんなにリッパなものにすることができ

るのですか？ 私は、みんなの協力があったからこそあんなにリッパなものを実行できたのではないかと思ひ。それが部落バズのすばらしくよい点ではないでしょうか。

部落バズには、こんな大きなよい点があるのだから、みんなが協力し合つて「志ドロ」「志だ話」をやめるよつにし、学習するときは真剣に学習し、遊ぶときは大いに遊ぶというよつな、けじめのあるリッパな部落バズにしたい。私たちの部落の人々、他の部落の人たちからも、「鍋湯部落バズはリッパだな。」と感心されるよつな鍋湯部落バズに、私たちの手でやつて行きたい。

部落バズについて

佐山 佐智子

部落バズを初めてから何ヶ月もたつただけれど、ちつとも上達しないと思ひ。そのわけは、なんといつて

も、志だ話が多いということだ。私もそうなんだけれど、どつしてそれを直そうとしないんだろつ。そんなら、志だ話をなくすることはむずかしいのどろつか。

勉強しているのは、一人だけじゃなく、多くの人たちが勉強しているのだから、もっと他の人のことを考へてやつたらいいんじゃないかと思ひ。そして、先生ばかりが注意するんじゃないか、みんなも積極的になつて、自ら注意したらいいんじゃないかなあ。班の中には、班長みたいな人がいるんだから、その人が中心になつて注意したらいいと思ひ。

少々の人が、部落バズをやめた方がいいと言ひたけれど、どつしてそんな悪い心が生まれてきたんだろつ。部落バズを続けていたから、「三年生を送る会」があんなにリッパにできたのだし、今やめたら、新一年生にバズのよさをわかしてもらえないと思ひ。新一年生だつて、やる気をだしているよつだし、ここでやめたら父兄の人たちだつてやつぱりすこしはがっかりするのではないかなあ。

私は、部落バズをやつて少しはためになつていふと思ひ。今までわからなかつたことも少しずつわかつて

きたし、それに、なんかまとまりがあるような感じが時々することがある。

鍋沼部落バス

平沢 裕子

嘉木部落がバスを始めて、「我々もやってみるか」ということので始めたこの部落バス。最初のころはみんながまじめに出てきていたのに、途中から休む人が多くなった。これでは、部落バスの意味はなくなってしまう。

バスを通して、部落の協働性が高まったことは確かだ。でも、勉強の面ではほとんど生かされてない。今、部落バス及対の意見が出ているが、今やめたら、今までのことが何むかむ中途半端で終わってしまう。今やめてしまえば、やっぱりかたに仕事を途中でほっぽり出してしまふことになる。私は、そんなひきよりの着にはなりたくない。それに、今、みんながバスについ

て改めて考え直したのだから、これからのバスはきよりのまいくにちがいない。みんなが協力すれば、この部落バスはきよりと成功するだろう。

部落バス

斎藤 桂子

部落バス、といってもいろいろことをするのだろう。今までみたいだ。ただ問題を作って、その問題をバス班で話し合ひ、それだけで部落バスなのだろいか。

バスといふことは英和辞典でみると、「ハチがブンブンいっているよりのす。」と書いてある。その、ハチがブンブンいっているよりのすを学習にとり入れて話し合ひののではないでしよいか。部落バスを始めたとき、一週間の復習をやると聞いた。プリントの中に、その一週間の問題点があればいい。もし、なかたとしてら、これからでもいいから、その問題点を入れた課題プリントが作れるよう努力したらいいと思ひ。

今、私たちがぶつかっている問題は、このまま続け
て行くかどうかという事だ。せ、かく今まできき
上げてきたバスを最上のものでしないうちにこわすの
はもったいない。このバスよりも良いバスを作り、
どこの部落からも注目されるような部落を作り上げて
行かなくてはならないでしょうか。

たとえば、時間帯の関係でむだ話が出てくるのなら、
時間帯をみんなて話し合い、もう、むだ話を出さないよ
うな時間帯にすればよい。それと、ひとりひとりの気
持も大切だ。みんな協力合せて、一人でも協力しな
いなんて人がないようにならないければ、最高のものに
ならないだろうと思う。

部落バス

齊藤 美鶴

部落バスの感想を書けといわれても、今まで、私は
部落バスをやっていてという自覚がうすく、毎土曜日

の六時前、公民館へ行って勉強をして帰ってくるだけ、
あ、けなく今までが過ぎてしまったというぐらいのこ
としか考えていない。が、よく考えると、長か、たよ
りにも思える。

部落バスの中で一番印象深かったのは、数々のレク
リエーションと、三月に行なわれた「三年生を送る会
」である。みんなも言っているように、「三年生を送
る会」は、すばらしかったと思う。しかし、た、た一
つ、私たちが大きく期待をかけていたことが、あ、け
なくうらぎられ、悲しい気持ちになったことも確かであ
る。部落バスで一番印象深かったのもこの時だ。た、
また、「三年生には全員出てきてほしい。」という念
願がうらぎられ悲しい思いをしたのもこの時だ。た、
このことさえなければ、と、てもすばらしい「三年生
を送る会」ができたのにと今でも悲しく思う。三年生
最後の部落バス（三年生を送る会）でのこの日、ほん
とりに三年生みんなに来てほしかった。

それから、うれしか。たことは、父母の人たちが、
どれほど私たちを思い、見守ってくれているかという
気持ちがこの三年生を送る会でよくわかったことです。

この会では、よい心の勉強をしたと思います。この三年生を送る会がすばらしくできたのも、半分以上は父母のみなさんが助けてくださった。だからだと思います。また、は、きりとはいいいきれませんが、みんなのまとまりを感じました。

今の部落バスを見ると、えの三年生がいたころに比べ、あまりよくないと思う。えの三年生のときは、あんなにゆくでぎ、だんだんよくなつて行くよりだ。たのに、今は、反対に悪くなつて行くよりだ。どうして今は、できないんだらう。まあ、新しく一年生が入つて気がゆるんでいるのかもしれないし、一年生がまだ部落バスのよさをわかっているために個人学習がうまくいかず、まだ話が出るからなのかもしれない。えの三年生がここまで築きあげた部落バスをくずして行くよりいいやだ。えの三年生の期待をうらぎっているよりで、今の部落バスでは、はずかしくて、堂々とえの三年生には見せられない。

これからは、「私たちは、三年生が卒業して行くから、これほどすばらしい部落バスを築き上げました」と言えるよりな部落バスを築きあげ、えの三年生

に堂々と見せてあげられる部落バスを作りたい。今が悪くても、これから一生懸命やればできると思う。これは私たちだけだと思ひ。がんばりたい。

鍋湯部落バス

青木 恵子

この鍋湯部落バスが始まつてから、わり、一年にもなります。そんな中で、「部落バスをやめよう」なんていう話も出ています。せ、かくここまでやってきた部落バス、この一年間の学習面においてはあまり効果があがらなかったと思ひし、まだまだ改良しなければならぬ所もたくさんあります。ですから、こんなままにして終わらせたくありません。どうせやるなら本当に学習面でも効果がでて、自分のものになるよりな、そして、みんながそれ協力し、団結し合えたい時に、やめるかやめないかという話を話し合えたいと思ひます。

今、ここでやめたら、今まで何のためにやっできたのかわからないし、やめたいという人は三年生の一部で、一年も二年もやりたいというふうにはりきっている。これから鍋淵部落をしょっていかなければならぬ三年生からそんなことではダメなんじゃないかな／＼と思います。理由を聞けば、「フマらない」「テレビが見られない」などということだし、今まで部落バスをやっここなければ、あのよりなすばらしい「三年生を送る会」などできなかつたと思います。部落バスをやっていたからこそ、少しずつみんなの心が合っていたために、あんなすばらしい三年生を送る会ができたんだと私は思います。

私たちがだつて、送ってもらった。たら、あんなふうに送ってもらいたいし、これからも、部落バスを一步でも二歩でも良い方へ良い方へと進めていきたいと思います。

父母の立場から

バズ学習について

平井 テル

バズ学習については、PTAに行き、一応の説明を聞きましたが、私たちの世代では、参観するまでは何のこともよくわかりませんでした。私が感じたことは、五、六人ずつのグループが机をかこんで話し合いをしている様子を見て、これは、わからないことなどはお互いに気象に教えたりおそわ、けり出来るし、部落バズなどでは、家ではあまりやらない勉強もみんな一緒にやらなければならぬと、雨の日も風の日もでかけて行くなど、たいへん良いことだと思つたことです。

が、その半面、ずるい子やも出るのではないかと思います。たとえば、自分は勉強しなくとも他の人がやって来るのを頼りにするとか、だれかが考えてくれないだろつなどと人をあてにして自分で学習することをしないとか、そりいり子どもが出て来るのではないかと思つたのです。それから、話がそれて、勉強以外のむ

だな時間をついやすこともあるのではないでしよつか。バズ学習の是非については、一口では言えませんが、子どもたちも一生懸命やっていることだし、父兄としてもできるだけ協力したいと思つた。

最後になりましたが、部落バズに来てくださる先生方はほんとうにたいへんでしよつが、これからますますしくおねがいいたします。

鍋嶋 部落バズ学習の

想い出

石垣 昭一

昭和四十七年六月、嘉木より還れること二ヶ月、記念すべき鍋嶋部落バズ学習は発足した。このにが、部落バズを発足させるまでには、永年のバズ学習の研究、舟越和吉先生の「着野木の子供は競争心が足りない、どうも親子の対話が少ないのではないか、授業、テレビ等の関係で家にはかり聞じこもって友人同士の

連絡が少ないのではないか、今が一番友だちを作らなければならぬ重要な時期、親子の交流の一番大事な時期、それには、父兄からも参加してもらって、家庭に見る子ども・集団の中で見る子供、それを通して親子先生の交流、話し合いの場が必要だ。それには、部落バズが一番だ。とこの非常なる熱意と、西脇、部落班長の嘉木部落見学と研究による積極的推進・熱意と努力、部落公民館の温かいご理解と応援、子供の一緒にやろうという決意、父兄の皆さんの協力、それらによって毎週土曜日六時半より二時間、部落公民館において父兄は二人ずつ交代で時間までに出席して子供の勉強を見まもり、先生は、部落バズ学習が軌道になるまでお午伝いを頼むということが始められた。

鍋湯部落バズ担当の松本先生の努力により、寒暖、風雨に関係なく特別の事情のないかぎり、休むことなく三月十日「三年生を送る会」まで続けられた。

定刻五分前、分団長が公民館の鍵を開ける。掃除、整理整頓係、学習係も決めてあって、順番にうすく活動している。学年別に男も女も小さいのも大きいのも公民館の座机に頭を突き合わせて靴一杯に持っていき

た本を開いて、分団長の指示の下で時間をくぎって、うすく勉強している。がやがやわいわいやっているグループがあるかと思えば、まことに静かなグループもある。その間、先生がグループの勉強を見まわり、適当なアドバイスを与えて居られる。子どもは生きいきと勉強している。あとで学習係が出した問題についての意見、父兄の感想、先生の講評があり、掃除して終わる。

子供の勉強を見てみると、家にいる時と違って、奥に生き生きと勝負なことをお互いに言い合っている。集団の中での家の子の態度、他の子ども一人一人の態度が良くわかる。親たちも共通の話題で話し合いができる。

十月六日に曾野中中学校において、新潟市バズ学習研究大会が開催された。もちろん、鍋湯バズ学習の実態も見学してもらった。午後より中学校体育館にて、幾つかのグループにわかかれて熱心なる研究討議がなされ、各地のバズ学習の実態、問題点等の発表がなされました。なつかしい板橋先生、南場先生、高橋広介先生、高橋経子先生もごみえになりました。

バス学習、その後ちよ、と中だるみもあつた。たよりですが、とにかく頑張つた。その間、忙しいところを毎回都合してくださつた先生に感謝します。子どもが生き生きと元気にやつております。今後永く続けてください。お願いします。

西脇さんがおられなくなつて後、円山富男さんが班長となられて三月十日、一、二年生の子供が三年生を送る会を開くとのことで、父兄側では常々子供と一緒に先生を囲んでいろいろ話し合いたいと考えていたので、好都合とさつそく仲間入りをした。当日は、六時より始めて歌あり踊りあり、子ども先生も父兄もみな一つになつて喜び合い、夜の更けるを知らなかつた。円山さんありがとつ、父兄のみなさんありがとつ、舟越寛佳、松本先生、誠にありがとつございました。中学生のみなさん、今後頑張つてや、て下さい。世のため人のため、親友をつくつて中学生時代を精一杯頑張つて生き抜いてください。先生に対する絶大なる信頼と共に、奥社会に出ていつまでも想い出として残るよめた。

みなさんとりもありがとつ。いつまでも絶けてくだ

さい。お願いします。

青春再び来たらす、一日農なり難し、

あやめ咲く 堀の深さや 石の垣

心に太陽を持って 唇に歌を持って、

感想

西脇 歳

八月中半にして、住みなれた鍋湯をさりまして、関係者諸氏及び中学生の皆様にご迷惑をかけたこと、文集を通しておわび申し上げます。

部落バスレーケ年を経過しましたが、半分は見ていませんので後半は残念なかわかりませんが、部落バスの感想は「などと言われどもきまりが悪くて……」でも、十二日の九回の学習までは、ほとんど毎回生徒たちを見てきました。まず、よきリーダーの石垣君、担当の松本先生及び諸先生がた、それに当番の父母の

かたがた、一体となつての勉強ぶりは外にないのでは
ないかと思ひます。中には、いたかないかわけからぬ
人もいたよりだ。たとも思ひますが……。

静かに、声一つ出さずに一生懸命勉強している日も
あれば、また、わいわいがやがやと、そりそりしい日
も数多くあつた。

二年目をむかへ、一より充実した勉強をして、曾野
木中、随一の部落バスとして、他部落の模範となるよ
う、いつまでも経緯され、ますます努力してくださる。

一年をふりかえつて

青木 徳栄

部落バス学習一年をふりかえつて、いろいろと考へ
させられることがあるが、

。良い点として、

ノ、先生まかせだつた教育に親も名ずつ当番とし
て参加してみ、自分の子供だけでなく、他人の

子供の勉強の様子も見る事ができて親としても
大変勉強になり、関心を持つのでよいと思ひ。当
番を面倒くさがる父母もいると思ひが、これは、
父母が反省すべきだと思ひ。共に勉強して行くこ
とを子供を伸ばすことなのだから。

2. 疎遠になりがちな共同精神、郷土愛など、一週
間に一度集会して勉強し、一堂に会して語り合ひ、
勉強と同時に心の通ひができて、永くおもしろい出
になると思ひ。将来、よい結果になると思ひ。

3. おとなは子供の鏡である、こんなことを知り得
たのバス学習について考へさせられた結果であ
り、自分ながら喜んでおります。

また、今後心配なのは、

ノ、マナー化し、自主性のない売名的な学習、集
会にならぬより望みたい。

2. リーダーの資格者がいない時の心配

3. 先生の苦勞の多いこと

等、心配な面もありますが、これ等の点は今後研究し
て注目してゆきたいと思ひます。

鍋湯部落バズの歌

(「アルプス一万尺」の節で)

鍋湯部落バズ 小雪の中を

みんなやっ来て 勉強する

ララララ ララララ ララララ ラララ

ララララ ララララ ララララ ラララ

鍋湯部落バズ 学習係は

課題を出さずに 遊んでる

鍋湯部落バズ 一年生は

女性ばかりで さびしがり

鍋湯部落バズ 二年生は

とっても熱心に 話してる

鍋湯部落バズ 三年生は

本のありたい 持ってくる

鍋湯部落バズ 今日楽しい

三年を送る会 聞きますよ

(これは、三月十日「三年を送る会」にあたり、
一・二年生のレク係を中心に作詞し、当日、
みんな歌ったものです。)